

国立ハンセン病資料館 重監房資料館

2018 年度 年報

国立ハンセン病資料館

目 次

第1部 国立ハンセン病資料館	3
第1章 国立ハンセン病資料館の概要	4
Ⅰ 目的・理念・機能	4
Ⅱ 運営委員会	6
Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程	8
Ⅳ 組織	11
Ⅴ 沿革	13
Ⅵ これまでの主な事業	14
Ⅶ 施設概要	19
第2章 2018年度事業	20
Ⅰ 教育啓発機能	20
1. 団体見学対応	
2. 語り部活動・講義	
3. シンポジウム・講演会等の開催	
4. 資料の貸出等	
5. 印刷物の発行・配布	
6. 学校教育との連携	
Ⅱ 展示機能	29
1. 常設展示	
2. 企画展示・特別展示	
Ⅲ 収集・保存機能	33
1. 資料の収集	
2. 収蔵資料の保存・管理	
Ⅳ 調査研究機能	34
1. 収蔵資料に関する調査	
2. 企画展・催事開催のための調査研究	
3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究	
Ⅴ 情報センター機能	37
1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用	
2. 情報提供・検索システム関連業務	
3. 図書室の管理・運営	
Ⅵ 管理・サービス機能	39
1. 施設管理・運営	
2. アンケートの実施	
3. 施設貸出	
Ⅶ 企画調整機能	40
1. 広報活動	
2. 博物館施設、関係諸機関との連携	
Ⅷ 2018年度利用状況	41

第2部 重監房資料館	43
第1章 重監房資料館の概要	44
I 目的・理念・機能	44
II 運営委員会	46
III 重監房資料館管理運営規程	47
IV 組織	50
V 沿革	51
VI 施設概要	53
第2章 2018年度事業	54
I 歴史継承機能	54
1. 資料の収集・保存	
2. 屋外展示（跡地）環境の保全	
3. 調査・研究	
4. その他	
II 普及啓発機能	56
1. 調査・研究成果の発表	
2. 語り部活動	
3. 人権学習の支援	
4. 普及啓発のための映像制作活動	
5. 執筆活動	
6. イベントの開催	
7. 学校教育支援活動	
8. 広報活動	
9. 栗生楽泉園との連携	
10. その他	
III 再現・展示機能	60
1. レクチャー室	
2. エントランス・ホワイエ	
3. 常設展示	
4. 企画展示	
5. その他	
IV 情報発信機能	62
1. ホームページ	
2. 広報資料の作成・発行	
3. マスコミ対応	
4. その他	
V 管理機能	63
1. 施設運用のための必要機能の整備	
VI 2018年度利用状況	64
利用案内	65

第 1 部 国立ハンセン病資料館

第1章 国立ハンセン病資料館の概要

I 目的・理念・機能

【目的】

「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」第18条（名誉の回復及び死没者の追悼）に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及び患者・元患者の名誉回復を図る。

【理念】

1. ハンセン病資料館は、ハンセン病に関する知識の普及や理解の促進に努めます
2. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる偏見や差別、排除の解消に努めます
3. ハンセン病資料館は、ハンセン病に対する、古代以来の長年にわたる偏見・差別、とりわけ誤った隔離政策の歴史に学び、苦難や被害を被った人々の体験と、これらに立ち向かった姿を示します
4. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々の名誉回復を目指し、人権尊重の精神を養うことに努めます
5. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々と社会との共生の実現に努めます

【求められる資料館像】

■普及啓発の拠点

ハンセン病に関する中核施設として、各療養所と連携を図りながら、ハンセン病についての医学的知識、治療の歴史、患者・元患者に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験についての情報を社会に示し、ハンセン病への理解を促進する。そして、それをもとに来館者が人権等の問題について考える場を提供する。

■情報の拠点

ハンセン病に関するあらゆる情報を受信・集積し、後世に継承するとともに、同様の取り組みを実施している国内外の関連組織との連携を図り、広く世界へ発信する。

■交流の拠点

資料館において語り部や患者・元患者との交流を促進する。

【機能】

■教育啓発機能

資料の収集保存や調査研究活動等によって得られた成果を、教育啓発を通じて一般に示し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■展示機能

教育啓発機能と同様に、資料を収集保存し調査研究活動を行い、その結果得られた成果を展示を通じて公開し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■収集保存機能

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため、ハンセン病に関わる資料を収集、保存する。

■調査研究機能

ハンセン病に関わるさまざまな調査研究を行い、教育啓発や展示活動等、資料館活動に有効なものとする。

■情報センター機能

ハンセン病に関わる情報の受発信と集積を行うとともに、全国の関連機関との連携を図る。

■管理・サービス機能

円滑な資料館運営を行うとともに、利用者の利便性を図る活動を実施する。

■企画調整機能

館内の各活動を行うための連絡調整や、全国の関連機関との連携促進、資料館の存在・その意義を認知させるための活動を行う。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

国立ハンセン病資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために行う。委員の任命および招集は館長が行う。事務局は日本財団が担当する。

2) 2018年度委員（敬称略）

委員長	成田 稔	（国立ハンセン病資料館長）
委 員	赤沼 康弘	（弁護士）
	飯塚 賢治	（国立ハンセン病資料館事務局長）
	大島 巖	（日本社会事業大学教授）
	黒尾 和久	（国立ハンセン病資料館重監房資料館部長）
	澤田 泉	（NPO法人東村山活き生きまちづくり理事長）
	柴田すい子	（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会副会長）
	平沢 保治	（多磨全生園入所者自治会会長）
	藤崎 陸安	（全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長）
	星野 奈央	（国立ハンセン病資料館事業部部長）
	元村 仁	（厚生労働省健康局難病対策課課長補佐）

3) 開催日

第1回	2018年	5月24日	第6回	同	12月7日
第2回	同	7月5日	第7回	2019年	1月29日
第3回	同	8月21日	第8回	同	2月26日
第4回	同	9月26日	第9回	同	3月16日
第5回	同	10月31日			

【参考】ハンセン病資料館等運営企画検討会

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営については、展示機能はもとより当該資料館の様々な機能を十分に発揮し、活動を円滑に推進すること、諸機能の質を維持しさらに発展していくこと、利用者の幅広いニーズに応え活発な事業展開を行っていくこと等を念頭に、資料館の特性を踏まえた管理運営を実現することが必要である。

このため、学識経験者、資料館関係者、患者団体代表者等の関係者から構成される「ハンセン病資料館等運営企画検討会」を開催し、資料館の年間事業計画の検討等を行うものとする。

2) 参集者 (敬称略)

鮎京真知子	(弁護士、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国弁護団連絡会)
後藤 正道	(ハンセン病療養所施設長協議会会長、国立療養所星塚敬愛園長)
島田 馨	座長 (元総務省人事・恩給局顧問医)
志村 康	(ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会会長)
鈴木 真理	(青山学院大学教育人間科学部教授)
半田 昌之	(公益財団法人日本博物館協会専務理事)
日比野守男	(ジャーナリスト)
増田 利之	(元埼玉県加須市立北川辺西小学校校長)
森 和男	(全国ハンセン病療養所入所者協議会会長)
山口 和子	(元公益財団法人笹川保健財団顧問)
横田 洋三	(公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長)
渡邊 明彦	(公益財団法人日本広報協会常務理事)

3) 開催日

第1回	2007年11月19日	第10回	2014年5月27日
第2回	2008年3月21日	第11回	2015年5月27日
第3回	2008年12月5日	第12回	2016年6月1日
第4回	2009年3月11日	第13回	2016年12月6日
第5回	2009年10月20日	第14回	2017年1月26日
第6回	2010年5月21日	第15回	2017年3月13日
第7回	2011年5月27日	第16回	2017年6月2日
第8回	2012年5月23日	第17回	2018年2月27日
第9回	2013年5月16日	第18回	2018年5月31日
		第19回	2018年12月19日

Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程

最終改正：2016年2月25日

(目的)

第1条 この規程は、国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

(事業)

第2条 資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（2018年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及びハンセン病患者・元患者の名誉回復を図るため、次に掲げる事業を行う。

(1) 教育啓発事業

ハンセン病に関する文献、実物（民俗、文書、美術、工芸、建築、遺構等）、模型、写真、フィルム、音声、映像、記事、オーラルヒストリー等の資料（以下「資料」という。）について、常設展示・映像ホールを活用して広く公開するとともに、情報を提供する。また、入所者その他の関係者による語り部活動、医療従事者による看護学校学生への医学的な講義等を通じた教育啓発の推進を図る。

(2) 展示事業

資料の収集保存、調査研究の成果を常設展示・特設展示等を通じて公開する。

(3) 収集保存事業

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため必要な資料及び図書を継続的に収集し、適切に保存する。

(4) 調査研究事業

ハンセン病に関する事象の調査研究を行い、教育啓発等の活動に有効に資する。

(5) 情報センター事業

資料館の情報システムを活用した情報の受発信及び集積を行い、国内外の関連施設との連携を図る。

(6) 管理・サービス事業

円滑な資料館運営を行い、利用者の利便や普及活動の推進を図る。

(7) 企画調整事業

資料館の活動を行うための連絡調整や全国の関連施設との連携の促進、資料館の存在意義を認知させるための活動を行う。

(年間事業計画)

第3条 国立ハンセン病資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は次の日）、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）、国民の祝日の翌日、館内整理日

(2) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

(入館料)

第5条 資料館の入館料は、無料とする。

(入館の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれがある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

(入館者への指導)

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損、または汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

(損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損し、又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

(資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の傷害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策について指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規定は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規定は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要な事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

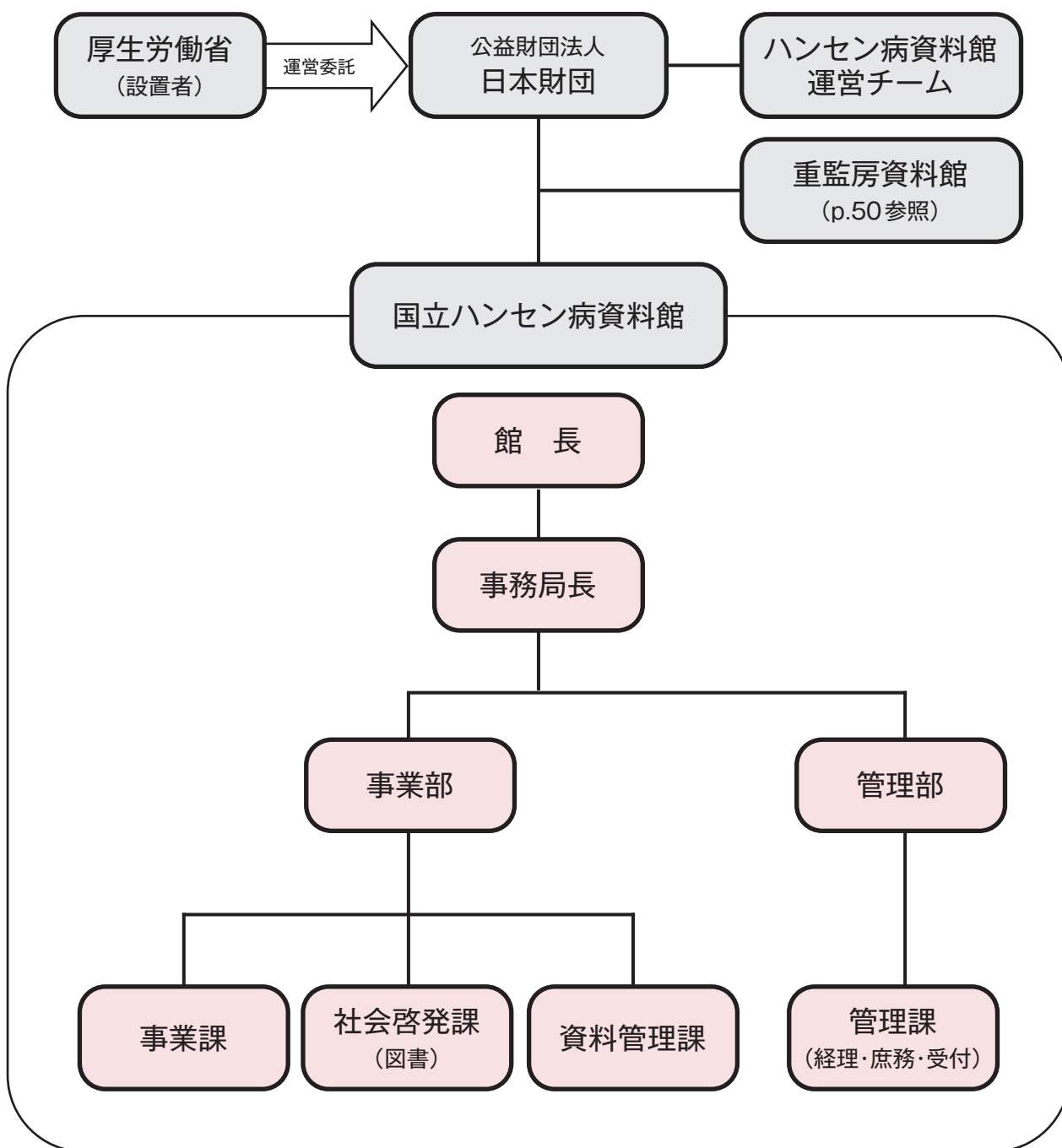
第16条 この規程に定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

この規程は、2007年4月1日から施行する。

IV 組織

■ 組織図



- ・ 事業課は、教育啓発機能関連業務の一部、展示機能関連業務、調査研究機能関連業務、企画調整機能関連業務を担当。
- ・ 社会啓発課は、教育啓発機能関連業務、情報センター機能関連業務、調査研究機能関連業務を担当。
- ・ 資料管理課は、収集保存機能関連業務、調査研究機能関連業務を担当。
- ・ 管理課は、管理・サービス機能関連業務、教育啓発機能関連業務の一部、企画調整機能関連業務の一部を担当。

■職員名簿 2019年3月31日現在

・館長 成田 稔
・事務局長 飯塚 賢治

・事業部 部 長 星野 奈央（事業課・社会啓発課長兼務）

事業課

学芸員 主任	西浦 直子	
〃	田代 学	
〃	大高俊一郎	
〃	大久保菜央	
〃	木村 哲也	
〃 主任	田村 朋久	（長島愛生園 同歴史館学芸員）
〃	原田 寿真	（菊池恵楓園 同社会交流会館学芸員）
〃	辻 央	（沖縄愛楽園 同交流会館学芸員）
〃	千川 直康	（栗生楽泉園 同社会交流会館学芸員）
〃	太田由加利	（邑久光明園 同社会交流会館学芸員）
〃	池永 禎子	（大島青松園 同社会交流会館学芸員）
〃	石井 千尋	（星塚敬愛園 同社会交流会館学芸員）
〃	真鍋沙由未	（宮古南静園 同人権啓発交流センター学芸員）
学芸員補	橋本 彩香	

社会啓発課

参与	儀同 政一
学芸員 主任	金 貴粉
司 書	高井 恵之
司書補佐	福富 裕子

資料管理課

学芸員 課長	稲葉 上道
--------	-------

・管理部 部 長 大川 光（管理課長兼務）

管理課 主任	熱田 純江
	曲木 昭枝
	中島 久行
	鈴木 錦
受 付	谷口喜代子
	赤石 和子

V 沿革

1990年	財団法人藤楓協会が創立40周年記念事業として資料館建設を計画し、有識者・各園園長・自治会長らからなるハンセン病資料調査会が発足(7月)。
1992年	資料館建築起工式(施工/建築:佐藤工業 展示:自主)(6月)。
	多磨全生園に高松宮記念ハンセン病資料館建設促進対策委員会設置(7月)。
	全国16園・関係機関から資料収集(10月～12月)。
	展示プラン作成(12月)。
1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館(運営委託先:財団法人藤楓協会)(6月)。
1994年	ハンセン病予防事業対策調査検討委員会の大谷藤郎座長が、「らい予防法」廃止と在園保障を柱とする「大谷見解」を表明(4月)。
1996年	「らい予防法」廃止(4月)。
2000年	財団法人日本船舶振興会(現日本財団)の協力により、当館の図書室・収蔵庫等の拡張、全園の資料保存を目的としたハンセン病資料保存検討委員会が発足(8月)。
2001年	ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟で原告勝訴(熊本地裁)。控訴期限当日に控訴断念の旨を盛り込んだ「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」が発表され、熊本地裁判決確定。総理談話にハンセン病資料館の充実も盛り込まれる(5月)。
	「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」成立(6月)。
	国賠訴訟の原告と被告との基本合意(7月)に基づき設置されたハンセン病問題対策協議会で、ハンセン病資料館の予算・施設・人的態勢の充実を確認(12月)。
2002年	国による名誉回復措置の一環としてハンセン病資料館を拡充することを目的に、厚生労働省がハンセン病資料館施設整備等検討懇談会を設置(5月)。
2003年	財団法人藤楓協会解散(3月)、資料館運営委託先が社会福祉法人ふれあい福祉協会に変更(4月)。
	開館10周年(6月)。
2004年	ハンセン病資料館施設整備等検討懇談会が「ハンセン病資料館の拡充にかかる基本計画書」を提出(3月)。
2005年	新館建築・展示リニューアル工事のため一時休館(施工/建築:佐藤工業 展示:丹青社)(9月)。
2006年	新館落成、展示工事開始(10月)。
2007年	展示プラン完成(2月)。
	国立ハンセン病資料館としてリニューアルオープン(3月)。
	厚生労働省がハンセン病資料館等運営企画検討会を設置(11月)。
2008年	「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」(通称「ハンセン病問題基本法」、翌年4月施行)の制定によりハンセン病資料館存立の法的根拠が確立(6月)。
2009年	資料館運営委託先が財団法人日本科学技術振興財団に変更(4月)。
2013年	開館20周年(6月)。
2014年	学芸部を新設し、同部に学芸課と社会啓発課を設置(8月)。
2016年	資料館運営委託先が公益財団法人日本財団に変更(4月)。
2018年	学芸部を事業部に、学芸課を事業課に変更し、資料管理課を新設。管理部を新設し、総務課を管理課に変更(4月)。

VI これまでの主な事業

1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館(6月)。
1994年	「多磨全生園・神山復生病院 昔むかし写真展」開催(4月～6月)。
	開館1周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」開催(6月)。
	「国吉信遺作絵画展」開催(9月～10月)。
1995年	「菊池恵楓園・琵琶崎待労病院 昔むかし写真展」開催(4月～6月)。
	『ハンセン病資料館』刊行(5月)。
	開館2周年記念フォーラム「ハンセン病の歴史を探る」開催(6月)。
1996年	開館3周年を記念し、「らい予防法廃止について」をテーマに評論を募集(4月)。
	「邑久光明園・大島青松園 昔むかし写真展」開催(5月～6月)。
	開館3周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」開催(6月)。
	「趙昌源絵画展 韓国小鹿島の光と影」開催(10月～11月)。
1997年	「好善社 慰廃園回顧展」開催(3月～4月)。
	「松丘保養園・長島愛生園 昔むかし写真展」開催(5月～6月)。
	講演会「ハンセン病の偏見・差別を越えて」開催(11月)。
1998年	「栗生楽泉園・星塚敬愛園 思い出の写真展」開催(5月～6月)。
	「趙昌源絵画と入園者作品展」開催(9月)。
	開館5周年記念「趙根在(遺作)写真展 ハンセン病の光と影」開催(10月～11月)。
	『高松宮記念ハンセン病資料館 開館5周年のあゆみ』刊行(12月)。
1999年	「写真展・沖縄2園の今昔」開催(5月～6月)。
	開館6周年記念「趙昌源講演会 国立小鹿島病院の思い出と韓国のハンセン病事情」開催(6月)。
	「陶芸展・全生焼 & 写真展・全生園の森展」開催(10月～11月)。
2000年	「芦村カズヨ絵画展」開催(1月)。
	「写真展「駿河療養所」& 写生画「東村山30景展」」開催(2月～3月)。
	「思い出の東北・奄美写真展」開催(5月～6月)。
	開館7周年記念「長島愛生園展」開催(10月～11月)。
2001年	らい予防法廃止5周年記念学習会「『らい予防法』とはなにか? ―法律と市民社会―」開催(全3回、3月～5月)。
	開館8周年記念講演会、鶴見俊輔「ハンセン病との出逢いから」開催(7月)。
	開館8周年記念「菊池恵楓園展」開催(10月～11月)。
2002年	開館9周年記念映画会「千と千尋の神隠し」開催(7月)。
	開館9周年記念「邑久光明園展」開催(10月～11月)。
2003年	開館10周年記念「松丘保養園展」開催(6月～7月)。
	開館10周年記念事業として、大谷藤郎講演会「近代の論理とハンセン病」と、ひとり芝居「をぐり考」を開催(6月)。
	開館10周年記念「多磨全生園展」開催(10月～12月)。
2004年	『高松宮記念ハンセン病資料館10周年記念誌』刊行(10月)。
2005年	開館12周年記念「各園むかし写真展」開催(6月～8月)。
2007年	常設展示リニューアル(3月)。
	国立ハンセン病資料館再開館式(3月)。

2007 年	リニューアルオープン記念「趙昌源絵画展 ー小鹿島の光と影ー」開催(4月～5月)。
	2007 年度秋季企画展「こころのつくろい ー隔離の中での創作活動ー」開催(10月～12月)。
	講演・ハーモニカ演奏会、近藤宏一「青い鳥楽団と私」開催(秋季企画展付帯事業、11月)。
2008 年	2008 年度春季企画展「ハンセン病療養所の現在」開催(4月～6月)。
	連続講演会「療養所の歴史を語る」開催(春季企画展付帯事業、全4回、6月)。
	2008 年度秋季企画展「ちぎられた心を抱いて ー隔離の中で生きた子どもたちー」開催(9月～11月)。
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2008』刊行(9月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第1号 平成19(2007)年度』刊行(10月)。
2009 年	企画展「北高作陶展 ー仲間に支えられてー」開催(1月～3月)。
	企画展「多磨全生園陶芸室のあゆみ」開催(1月～3月)。
	「隔離の百年」のプレ企画として「公立療養所写真パネル展」開催(4月～6月)。
	2009 年度企画展「隔離の百年 ー公立癩療養所の誕生ー」開催(7月～12月)。
	シンポジウム「隔離の記憶を掘る ー全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」ー」開催(企画展付帯事業、9月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第2号 平成20(2008)年度』刊行(10月)。
2010 年	国際ハンセン病政策シンポジウム(第1回)「ハンセン病医療政策と資料保存 ー日本とノルウェーー」開催(金沢大学との共催、1月)。
	企画展「桃生小富士展」(1月～2月)。
	Everly コンサート開催(企画展付帯事業、2月)。
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2009』刊行(3月)。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット1 シンポジウムの記録 隔離の記憶を掘る ー全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」ー』刊行(3月)。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号』刊行(3月)。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2 ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月)。
	『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月)。
	2010 年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月～7月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月)。
	2010 年度秋季企画展「「全生病院」を歩く ー写された20世紀前半の療養所ー」開催(9月～12月)。
2011 年	企画展「高山勝介作陶展」開催(2月～3月)。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月)。
	2011 年度春季企画展「かすかな光をもとめて ー療養所の中の盲人たちー」開催(4月～7月)。
	企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月～6月)。
	講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月)。
	企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月～9月)。
	2011 年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある ー全療協60年のあゆみー」開催(10月～12月)。
	連続講演会「わたしの運動の記憶」開催(秋季企画展付帯事業、全4回、11月～12月)。
2012 年	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行(3月)。

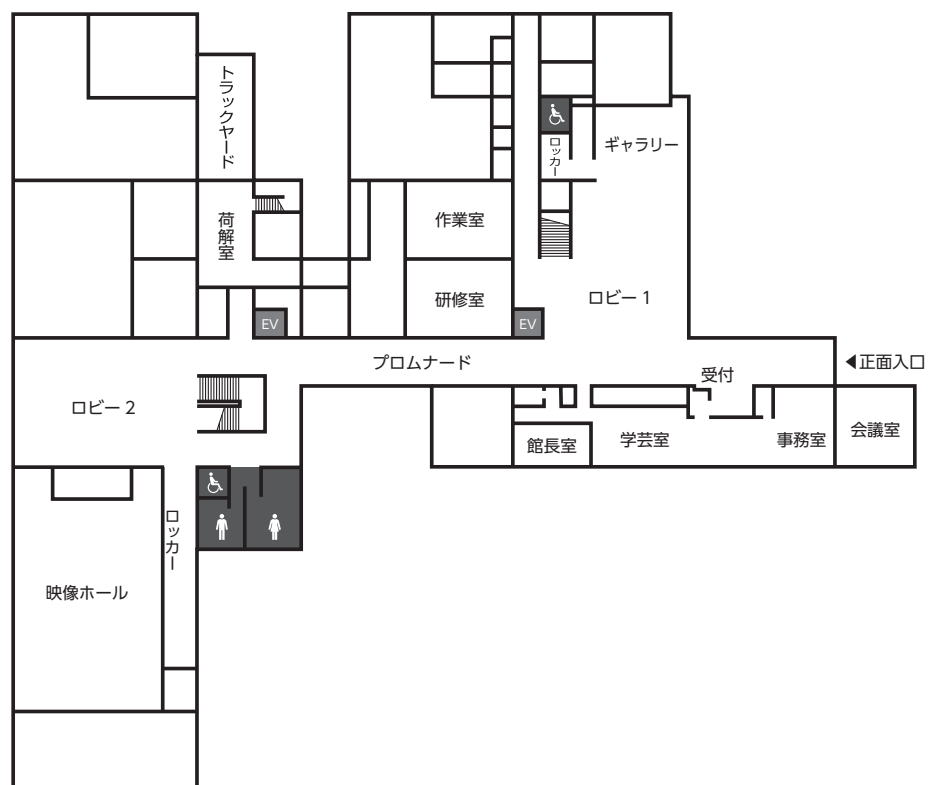
2012年	『国立ハンセン病資料館年報 第4号 平成22(2010)年度』刊行(3月)。
	2012年度春季企画展「青年たちの「社会復帰」—1950-1970—」開催(4月～7月)。
	講演会、中修一「“社会復帰10年” —中修一さん 2回の社会復帰をとおして—」開催(春季企画展付帯事業、6月)。
	特別企画展「北高作陶展」を奈良県天理市で開催(9月)。
	2012年度秋季企画展「癪院記録 —北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所—」開催(10月～12月)。
	講演会、清原工「北條民雄・人と作品」開催(秋季企画展付帯事業、11月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第5号 平成23(2011)年度』刊行(11月)。
2013年	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2012』刊行(1月)。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット3 看護の足もと “看護の行為と看護の原理”を問いなおす』刊行(2月)。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第4号』刊行(3月)。
	2013年度春季企画展「一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者 ～中世前期の患者への眼差しと処遇～」開催(5月～8月)。
	講演会、田中密敬「極楽寺境内絵図を紐解く」開催(春季企画展付帯事業、6月)。
	開館20周年記念展開催(6月～7月)。
	開館20周年記念式典開催(6月)。
	『国立ハンセン病資料館 20周年記念誌』、『資料館だより』復刻版 —20年のあゆみ— 第1号(1993年10月) - 第79号(2013年4月1日)』刊行(6月)。
	開館20周年記念講演会、日野原重明「ハンセン病の患者に生涯を捧げた神谷美恵子医師の生き方」開催(6月)。
	講演会、遠山元浩「一遍聖絵の世界」開催(春季企画展付帯事業、7月)。
	2013年度秋季企画展「想いでできた土地 多磨全生園の記憶・くらし・望みをめぐる」開催(10月～12月)。
	多磨全生園現地ガイドツアー開催(秋季企画展付帯事業、全6回、10月～12月)。
2014年	開館20周年記念座談会「資料館の設立、活動、これからへの期待を語る」開催(11月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第6号 平成24(2012)年度』刊行(12月)。
	特別企画展「林志明作品展 —中国ハンセン病回復者の書画活動—」開催(4月～5月)。
	講演会、林志明「私と書画活動」開催(特別企画展付帯事業、4月)。
	2014年度春季企画展「不自由者棟の暮らし —ハンセン病療養所の現在—」開催(4月～7月)。
	講演会、山内和雄「沖縄愛楽園の不自由者棟」開催(春季企画展付帯事業、6月)。
	東京都公文書館にて、同館との共催企画展「人権の歴史とアーカイブズ —ハンセン病、隔絶の歴史を超えて—」開催(10月～12月)。
2015年	2014年度秋季・2015年度春季企画展「この人たちに光を —写真家趙根在が伝えた入所者の姿—」開催(11月～2015年5月)。
	講演会、大竹章「趙根在の写真を語る」開催(秋季・春季企画展付帯事業、11月)。
	『国立ハンセン病資料館年報 第7号 平成25(2013)年度』刊行(3月)。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第5号』刊行(3月)。
	絵本『すみれ』(文:北條民雄、絵:山崎克己)刊行(3月)。
	「北條民雄生誕100年絵本「すみれ」刊行記念原画展」開催(7月)。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(8月)。

2015年	2015年度秋季企画展「私立ハンセン病療養所 待労院の歩み ―創立から閉院までの115年―」開催(10～12月)。
2016年	絵本『かわいいポール』(文:北條民雄、絵:おほまこと)刊行(3月)。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成26(2014)年度 年報』刊行(3月)。
	2016年度春季企画展「らい予防法」をふりかえる」開催(4月～7月)。
	講演会、長田浩志「全患協と共に歩んだ「らい予防法廃止」への道のり」開催(春季企画展付帯事業、7月)。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(8月)。
	2016年度秋季企画展「生きるための熱 ―スポーツにかける入所者たち―」開催(10月～12月)。
	「あなたもゲートボールデビュー」開催(秋季企画展付帯事業、11月)。
	野球談議「嗚呼、新良田教室野球部！！」開催(秋季企画展付帯事業、12月)。
2017年	「多磨全生園内「全生学園跡地」における「堀」の現地見学会」開催(1月)。
	「若松若太夫師匠の説経節の公演」開催(2月)。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成27(2015)年度 年報』刊行(2月)。
	「多磨全生園内「土塁・堀の考古学調査」についての成果報告会」開催(3月)。
	2017年度春季企画展「ハンセン病博物館へようこそ」開催(4月～7月)。
	「「ハンセン病博物館へようこそ」各館活動報告会」開催(春季企画展付帯事業、7月)。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(7月・8月)。
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催(8月)。
	2017年度秋季企画展「隔離のなかの食 ―生きるために 悦びのために―」開催(9月～12月)。
	講演会「ハンセン病療養所の食の現在 ―国立療養所邑久光明園から―」開催(秋季企画展付帯事業、11月)。
2018年	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催(11月～3月)。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成28(2016)年度 年報』刊行(2月)。
	佐川修さんを偲ぶ上映会を開催(4月)。
	佐川修さん追悼展を開催(4月～5月)。
	2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―」開催(4月～7月)。
	古典・民謡コンサート開催(春季企画展付帯事業、7月)。
	ギャラリートーク開催(春季企画展付帯事業、5月～7月)。
	ギャラリー展「長渡虹邨展」開催(6月～7月)。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(7月)。
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催(7月)。
	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー！記者になってみよう」開催(8月)。
	「プロカメラマンと撮る全生園」開催(9月)。
	映画「あつい壁」上映会開催(11月)。
	ギャラリー展「生誕100年 島比呂志展 ―書くことは生きること―」開催(11月～12月)。
	ギャラリートーク開催(島比呂志展付帯事業、11月)。
	上映会&平沢保治さんトークイベント「親子でハンセン病を学ぼう」開催(11月)。

2018年	2018年度秋季企画イベント「もうひとつの橋 ～邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベント～」開催(11月)。
	講演会「生誕100年 島比呂志の生涯と文学」開催(12月)。
	講演会「ソーシャルワーカーを目指すあなた達に伝えたいこと」開催(12月)。
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催(4月～12月)。
2019年	ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」開催(1月)。
	映画「新・あつい壁」上映会開催(3月)。
	ビデオ上映会「ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」」(2月～3月)。
	上映会&韓国舞踊公演「貴重映像でたどる「アリランの会」の軌跡」開催(3月)。
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催(2月～3月)。

VII 施設概要

1 階



2 階



延べ面積…4,350.38 m²
 常設展示室…878 m²
 企画展示室…175 m²
 映像ホール…195 m²
 図書室（閲覧室）…116 m²
 収蔵庫…368 m²

第2章 2018年度事業

I 教育啓発機能

1. 団体見学対応

団体来館者に対しては、①ガイダンス映像視聴、②語り部講演映像視聴、③展示見学、④学芸員による見学前ガイダンスなどを希望に応じて組み合わせる団体見学対応プログラムをもって対応した（要予約、10人以上の団体であることが条件）。

1) 一般団体

【対応日】原則として開館日は毎日対応

【内 容】①ガイダンス映像視聴。以下いずれかもしくは両方を視聴

『柊の向こう側』（約40分）

展示見学の手引きとして、2007年に作成。内容は、日本を中心としたハンセン病患者・回復者の証言およびハンセン病対策の歴史と現状の概要説明で構成。

『ハンセン病を知っていますか？』（約15分）

内容は、主にハンセン病の医学的な解説、回復者の後遺症についての説明で構成。

②語り部講演映像視聴。以下いずれかもしくは両方を視聴

『平沢保治さん講演』（約55分）

『佐川修さん講演』（約55分）

③学芸員による見学前ガイダンス（約15分）

④展示室自由見学

2) 小・中学生

【対応日】原則として平日

【内 容】①ガイダンス映像視聴

小学生：『忘れられた人たち』視聴（9分）

子どものための展示見学の手引きとして2007年に作成。ハンセン病をめぐる偏見・差別と、身の回りのいじめとのつながりについて理解を促すもの。

中学生：『柊の向こう側』

②語り部講演映像視聴（約35分、学年別に3種類）

③学芸員による見学前ガイダンス（約15分）

④展示室見学（展示室で学芸員が質問対応を行う）

⑤学芸員による展示見学後のまとめ（約15分）

3) 2018年度 月別来館団体数・団体来館者数（2018年4月～2019年3月）

月	来館団体数	団体来館者数	月	来館団体数	団体来館者数
4	47	1,837	10	56	2,202
5	34	865	11	61	1,746
6	46	1,842	12	40	1,216
7	44	1,424	1	28	1,096
8	27	695	2	30	1,382
9	40	1,446	3	32	1,077
			合計	485	16,828

【主な来館団体】 小学校、中学校、高等学校、大学、専修学校（主に看護、福祉系）、教員、教育委員会、省庁、自治体、民生委員、人権擁護委員、福祉施設、企業、弁護士会、宗教団体

2. 語り部活動・講義

1) ハンセン病体験講話

語り部活動の一環として、前年度に引き続きハンセン病体験講話を以下のとおり実施した。

	月 日	講話者(敬称略)	会 場
第10回	4月8日	山内きみ江	映像ホール
第11回	4月22日	城 正	映像ホール
第12回	5月26日	川邊 嘉光	映像ホール
第13回	5月27日	富岡 克行	常設展示室・企画展示室
第14回	6月10日	S. ショウジ	映像ホール
第15回	6月20日	平野 智	映像ホール
第16回	6月23日	ナ ベ	研修室
第17回	7月21日	石山 春平	映像ホール
第18回	8月4日	藤崎 陸安	映像ホール
第19回	8月25日	坂田 啓子	研修室
第20回	9月23日	柴田すい子	映像ホール
第21回	10月7日	山内きみ江	研修室
第22回	11月24日	富岡 克行	常設展示室
第23回	12月15日	城 正	映像ホール
第24回	2月3日	川邊 嘉光	研修室
第25回	2月17日	平野 智	研修室
第26回	3月31日	S. ショウジ	研修室

【参加者】 633人

2) 看護学校生向け講義

看護学校生を中心とした医療・福祉関係者に対し、ハンセン病の歴史と現状から学ぶ看護のあり方について講義を行った。講義は看護学校向け団体対応プログラムに組み込まれている（原則週1

回、火曜日)。

【講師】 成田 稔 (当館館長、同運営委員、多磨全生園名誉園長)
西浦直子 (当館主任学芸員)

【実施団体数】 16団体

【対応来館者数】 747人

3) 館外講演会への講師派遣

学校、自治体、教育委員会等からの依頼に応じ、下記の通り、学芸員等を講師として派遣した。

【講師】 儀同 政一 (当館参与)
金 貴粉 (当館主任学芸員)
大高俊一郎 (当館学芸員)

【実施団体数】 95団体

【聴 衆】 10,899人 ※聴衆は概数を含む

3. シンポジウム・講演会等の開催

1) ガイダンスビデオ上映

2018年度から、これまで団体向けに上映してきたガイダンスビデオを個人の来館者にも提供するため、月に数回ガイダンスビデオの上映を開始した。

■「柵の向こう側～ハンセン病患者・回復者の歩み～」(日本語字幕つき 約40分)

日本の隔離政策の歴史と療養所での過酷な暮らし、そして患者・回復者による人権回復のあゆみについて、インタビュー映像とともに伝える。

上映開始時間 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00

■「ハンセン病を知っていますか？」(日本語字幕つき 約15分)

ハンセン病とはどんな病気か、症状や後遺症は日常生活にどのような影響があるのか、などについてコンパクトにまとめたもの。

上映開始時間 11:40 12:40 13:40 14:40 15:40

【開催回数】 53回

【会 場】 映像ホール

2) 常設展示室での展示解説

2018年度から、これまで団体向けに提供してきた常設展示室の展示解説を個人の来館者にも提供するため、月に数回、常設展示室での展示解説を開始した。

【開催回数】 16回

【会 場】 プロムナード、常設展示室(展示室1・2・3)

【参 加 者】 211人

3) 佐川修さん追悼イベント

資料館設立以来、中心となって当館を支えてこられた故佐川修さんを偲ぶ上映会を開催した。

【開催日】 2018年4月15日

【会 場】映像ホール

【参加者】35人

4) 2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディーハンセン病療養所の音楽活動―」

付帯事業

■古典・民謡コンサート

ハンセン病療養所入所者・職員およびプロの民謡歌手・三味線奏者による古典・民謡コンサートを開催した。

【開催日】2018年7月8日

【出演者】仲里 朝篤 (三線野村流師範、沖縄愛楽園)

小底 京子 (琉球箏曲興陽会師範、沖縄愛楽園)

星塚三線同好会 (星塚敬愛園)

おもだか 秋子 (ビクター専属民謡歌手、津軽三味線澤田流 澤田勝女)

【会 場】映像ホール

【参加者】110人

■ギャラリートーク

【開催日】2018年5月3日、5月4日、5月13日、5月19日、6月2日、6月24日、7月14日、7月28日

【会 場】企画展示室

5) 「ハンセン病と人権」夏期セミナー

ハンセン病問題を総合的かつ体系的に学び授業に活用することを目的として、主に教育関係者を対象とした「ハンセン病と人権」夏期セミナーを開催した。

【開催日】2018年7月27日

【会 場】映像ホール

【参加者】70人

6) 夏休み自由研究応援企画

■「多磨全生園のフォトブックを作ろう」

小学生を対象に、多磨全生園の史跡を巡り写真を撮り、フォトブックを作ることで、多磨全生園並びに資料館の活用について学ぶイベントを開催した。

【開催日】2018年7月29日

【会 場】常設展示室、図書室、研修室、多磨全生園

【参加者】11人

■「回復者へインタビュー！記者になってみよう」

小学生を対象に、ハンセン病回復者の体験談を聞き、その後語り手に直接インタビューし、その内容を夏休みの宿題に役立ててもらおう企画を開催した。

【開催日】2018年8月18日

【会 場】 研修室

【参加者】 8 人

7) 「プロカメラマンと撮る全生園」

若年層を対象に、ハンセン病療養所内の撮影を通してハンセン病について考えることを目的としてプロのカメラマンと園内を撮影するイベントを開催した。

【開催日】 2018年9月29日

【講 師】 黒崎 彰氏（写真家）

【会 場】 研修室、多磨全生園

【参加者】 4 人

8) 映画上映会

■映画「あつい壁」上映会

映画「あつい壁」（1979年）を制作した中山節夫監督のトークイベントおよび上映会を開催した。

【開催日】 2018年11月3日

【講 師】 中山節夫氏（映画監督）

【会 場】 映像ホール

【参加者】 150 人

9) 上映会&トークイベント「親子でハンセン病をまなぼう」

アニメ「未来への虹」の上映会および平沢保治さんのトークイベントを開催した。

【開催日】 2018年11月10日

【講 師】 平沢保治氏（多磨全生園入所者自治会会長）

【会 場】 映像ホール

【参加者】 38 人

10) 「もうひとつの橋 ～邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベント～」

1983年山陽放送制作のドキュメンタリー番組「もうひとつの橋」の上映と、作品の舞台となった長島愛生園の入所者によるトークイベントを開催した。

【開催日】 2018年11月23日

【講 師】 中尾伸治氏（長島愛生園入所者自治会会長）

【会 場】 映像ホール

【参加者】 200 人

11) ギャラリー展「生誕100年 島比呂志展 一書くことは生きること」

付帯事業

■ギャラリートーク

【開催日】 2018年11月25日

【会 場】 ギャラリー

■講演会「生誕100年 島比呂志の生涯と文学」

ギャラリー展「生誕100年 島比呂志展」の開催に合わせ、『火山地帯』の編集発行を引き継いだ立石富生さんの講演会を開催した。

【開催日】2018年12月1日

【講師】立石富生氏（作家、文芸同人誌『火山地帯』編集発行人）

【会場】映像ホール

【参加者】27人

12) 講演会「ソーシャルワーカーを目指すあなた達に伝えたいこと」

ハンセン病療養所でソーシャルワーカーとして働く講師をお招きし、ソーシャルワーカーを志した理由、仕事のやりがい、入所者が抱える困難などについての講演会を開催した。

【開催日】2018年12月22日

【講師】坂手悦子氏（国立療養所邑久光明園福祉課、ソーシャルワーカー）

【会場】映像ホール

【参加者】65人

13) ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」

開館以来、当館の運営にたずさわってこられた故佐川修さんと長年親交があった宮崎駿監督から、佐川さんと資料館の思い出をお話いただくイベントを開催した。

【開催日】2019年1月27日

【講師】宮崎駿氏（アニメーション映画監督）

【会場】映像ホール

【参加者】190人（参加者の抽選を実施）

14) 映画「新・あつい壁」上映会

映画「新・あつい壁」（2007年）の上映会を開催した。

【開催日】2019年3月16日

【会場】映像ホール

【参加者】94人

15) ビデオ上映会「ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」

2019年1月27日開催の「ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」」の様子を撮影したビデオ上映会を開催した。

【開催日】2019年2月24日、3月10日、3月24日

【会場】映像ホール

【参加者】226人

16) 上映会&韓国舞踊公演「貴重映像でたどる「アリランの会」の軌跡」

かつて多磨全生園で行われた韓国舞踊会「アリランの会」の公演映像上映および金順子さんらによる韓国舞踊公演を開催した。

【開催日】 2019年3月30日

【出演者】 金順子氏（韓国伝統舞踊家）、李娜美氏、文景花氏、琴龍淑氏

【会 場】 映像ホール

【参加者】 190人

4. 資料の貸出等

1) 写真パネルの貸出

ハンセン病問題の啓発に資する展示を自ら企画したいという方々を対象に、写真パネルセットの貸出を行った。「全園写真パネル」（全国の療養所における写真パネル46点のセット）、「多磨全生園写真パネル（戦前編）」（多磨全生園の写真パネル19点とタイトル1点のセット）、「たたかいつづけたから、今がある―全療協60年のあゆみ―」（2011年度秋季企画展の展示内容が含まれたパネル一式）の3セットがあり、先方の希望に応じて貸し出した。

【件数】 15件

2) 所蔵資料の貸出

当館で所蔵する資料の貸出を希望する団体、個人に対して、資料の貸出を行った。

【件数】 2件

3) 啓発用ビデオ、語り部ビデオの貸出

希望する団体に対して当館で作成した下記映像資料（いずれもDVD）の貸出を行った。

【啓発用ビデオ】『ハンセン病を知っていますか？』（一般向け、一般向け英語版）、『未来への虹―ぼくのおじさんはハンセン病―』（小学生向け）

【語り部ビデオ】『平沢保治さん講演』（小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編、教員編、看護学生編、公務員編）、『佐川修さん講演』（中学生編、一般・医療・看護学生編）

【件数】 55件

4) 啓発資料等作成への協力

ハンセン病に関する啓発資料等の作成にあたり、当館所蔵資料の複製・掲載等を希望する個人、団体に対して、撮影・複製許可等の協力を行った。

【件数】 49件

5. 印刷物の発行・配布

下記の印刷物を発行し、来館者および関係機関等に配布した。

1) 『資料館だより』（季刊）

・第99号 （2018年4月1日発行）

・第100号 （2018年7月1日発行）

・第101号 （2018年10月1日発行）

- ・第102号（2019年1月1日発行）

2) 来館者用配布資料等

- ・資料館リーフレットを改訂・増刷した。（2019年2月）

3) 展示図録

- ・2018年度春季企画展図録『この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―』を発行した。（2018年4月28日）
- ・2017年度春季企画展ガイドブック『ハンセン病博物館へようこそ』を改訂・増刷した。（2018年12月28日）
- ・2019年度春季企画展図録『キャンパスに集う～菊池恵楓園・金陽会絵画展』を発行した。（2019年3月31日）

4) ブックレット

- ・国立ハンセン病資料館ブックレット4『橋を渡る 邑久長島大橋架橋30周年記念』を発行した。（2018年11月23日）
- ・国立ハンセン病資料館ブックレット4『橋を渡る 邑久長島大橋架橋30周年記念』を増刷した。（2019年1月31日）

5) 研究紀要

- ・『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第6号』を発行した。（2019年3月31日）

6) 年報

- ・『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成28（2016）年度 年報』を発行した。（2019年3月31日、当館ホームページにて公開）
- ・『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成29（2017）年度 年報』を発行した。（2019年3月31日、当館ホームページにて公開）

6. 学校教育との連携

1) 教材ビデオの配布

教材ビデオ『平沢保治さん講演 小学生中学年編』、『平沢保治さん講演 小学生高学年編』、『平沢保治さん講演 中学生編』、『平沢保治さん講演 教員編』（いずれもDVD）について、希望する学校・教育関係機関に配布した。

【件数】29件 【配布本数】62本

2) 小中学校への送迎バス配車サービス

下記の通り送迎バスを計77回配車した。（利用者の合計は3,399人）

■配車サービス実施状況

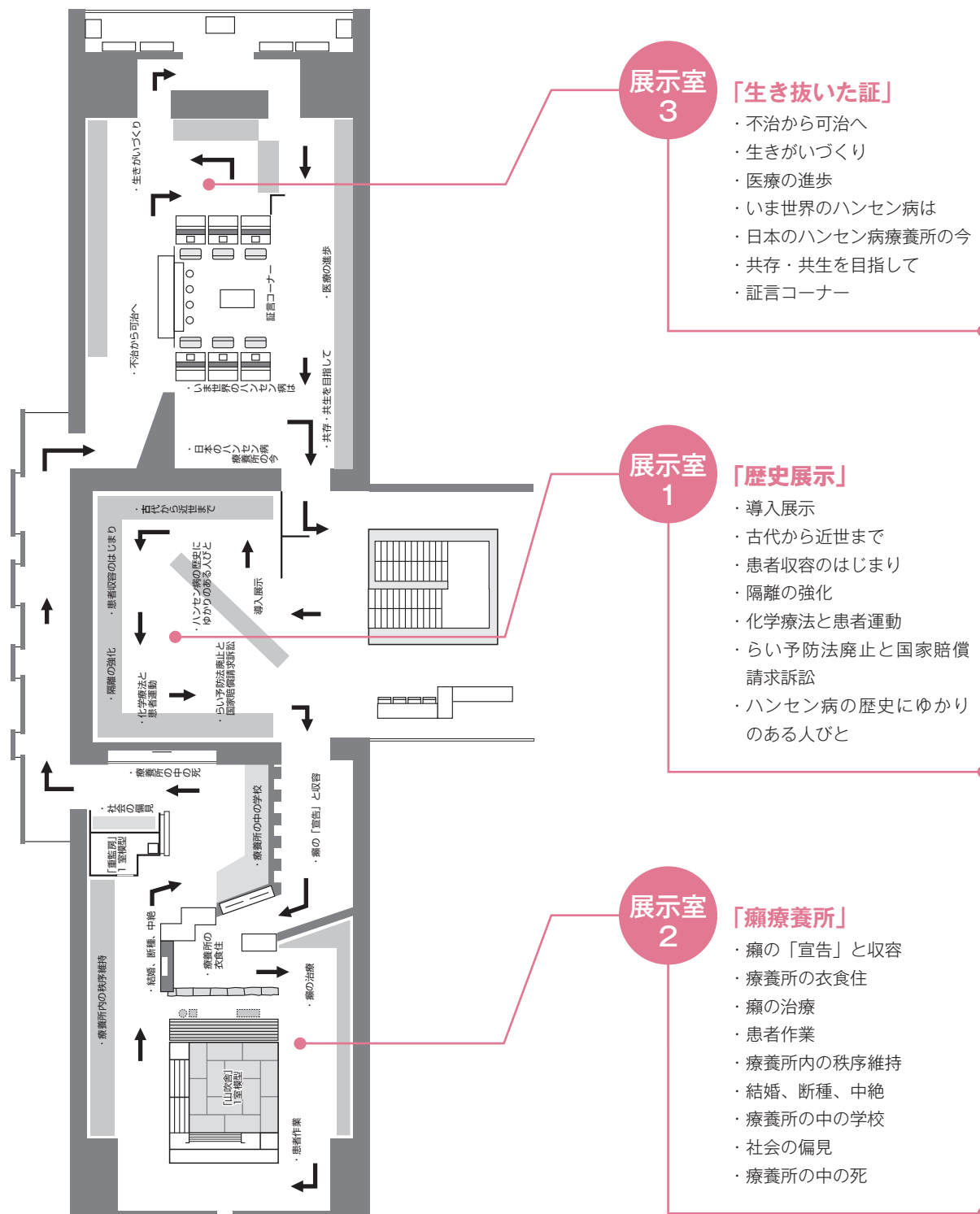
	件数	利用人数(人)	配車台数(台)
小学校	28	2,322	54
中学校	7	1,014	21
児童自立 支援施設	2	63	2
合計	37	3,399	77

Ⅱ 展示機能

1. 常設展示

1) 常設展示

展示室1「歴史展示」、展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」、およびプロムナード展示の4つのエリアで構成し、約950点の資料を展示している。



■展示室1「歴史展示」

【趣旨・内容】 病気についての簡潔な説明を導入展示として設置し、続けて日本における古代から現代までのハンセン病の歴史を、通史的に追う。常設展示の中心である展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」を見るための前提として、歴史的経緯の把握を目的とした展示と位置づけている。

【主 な 資 料】 文書、写真、地図、実物資料、模型、解説映像、小学生向け解説シート

■展示室2「癩療養所」

【趣旨・内容】 化学療法開発以前の時代を中心に、療養所における苦難に満ちた生活、隔離政策のもとでの人権侵害、偏見・差別の実例を示す。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋と「重監房」の1室原寸大模型も展示している。

【主 な 資 料】 生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の1室（模型）、「重監房」の1室（模型）、文書、写真、解説映像

■展示室3「生き抜いた証」

【趣旨・内容】 苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿と、ハンセン病をとりまく諸状況を示す。具体的には、患者運動、創作活動、共に生きる手がかりとなる知識などを展示している。また、国内42人、海外22人の回復者・関係者の証言映像を視聴できるビデオブース（証言コーナー）を設けている。なお展示室2から展示室3に至る回廊には絵画作品を、展示室3の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

【主 な 資 料】 写真、文書、文学作品、絵画、陶芸、書、手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類、解説映像、証言映像

■プロムナード展示

設立準備（1990年）から開館20周年（2013年）までの当館の足跡、館の目的・理念・機能、基本情報（面積、運営費等）を展示している。

2) 常設展示の更新

- ・プロムナード 「ハンセン病資料館の基本情報」の更新を行った。
- ・展示室2 照明をLEDスポットライトに変更した。
- ・展示室3 「日本のハンセン病療養所の今」コーナーの「療養所所在地と入所者数」のパネルについて各園入所者数を更新した。

2. 企画展示・特別展示

1) ハンセン病資料館の自主企画による企画展示

■佐川修さん追悼展

【会 期】 2018年4月1日（日）～5月6日（日）

【会 場】 ギャラリー

【趣 旨】 資料館設立準備以来、中心となって支えてこられた故佐川修さんを偲んで、これまでの佐川さんの活動の様子を写した写真や愛用品を紹介する展示を開催した。

■2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―」

【会 期】2018年4月28日（土）～7月31日（火）

【会 場】企画展示室

【趣 旨】本展では、隔離のなかで入所者が音楽に注いだ情熱と、生きる力や慰めを与え、差別をこえて人びとを結びつける音楽の力を感じてもらうことを目的に全国の療養所に保存されていた楽器、楽譜、衣装、プログラム、発表会や練習の写真などを展示した。

【付帯事業】〔国立ハンセン病資料館 古典・民謡コンサート〕

日 時 2018年7月8日（日）13:30～15:30（13:00開場）

会 場 国立ハンセン病資料館 映像ホール

〔ギャラリートーク（学芸員による展示解説）〕

日 時 2018年5月3日（祝）、4日（祝）、13日（日）、19日（土）6月2日（土）、
24日（日）、7月14日（土）、28日（土）

会 場 企画展示室

■長渡虹邨展

【会 期】2018年6月12日（火）～7月3日（火）

【会 場】ギャラリー

【趣 旨】長年、書の創作活動を続けてこられた多磨全生園入所者である長渡虹邨（本名長渡幸男）さんの書道作品や道具などを紹介するギャラリー展を開催した。

■生誕100年 島比呂志展 ―書くことは生きること―

【会 期】2018年11月17日（土）～12月7日（金）

【会 場】ギャラリー

【趣 旨】ハンセン病療養所を拠点に活動した代表的な作家である島比呂志さんの自筆原稿、自筆書簡、写真などを通して、書くことに生きた島比呂志さんの不屈の生涯をたどり、その人物像と作品世界を広く紹介することを目的としたギャラリー展を開催した。

【付帯事業】〔ギャラリートーク（学芸員による展示解説）〕

日 時 2018年11月25日（日）

会 場 ギャラリー

〔講演会「生誕100年 島比呂志の生涯と文学」〕

日 時 2018年12月1日（土）14:00～15:30（13:30開場）

会 場 国立ハンセン病資料館 映像ホール

2) 関連機関等への施設貸出（展示）

■写真展「『するが』～富士のすそ野に生きて」

【主 催】写真家黒崎彰&動物介在活動ぷらす

【会 期】2018年9月22日～10月12日

【会 場】ギャラリー

【内 容】駿河療養所入所者と写真家黒崎彰さんの写真展

■第45回全生園まつり 人権パネル展

- 【主 催】 東京法務局、東京都人権擁護委員連合会
- 【会 期】 2018年11月3日
- 【会 場】 ギャラリー
- 【内 容】 全生園まつりにおける人権パネル展の展示、人権啓発ビデオの放映

■草津のかあさま コンウォール・リー女史と聖バルナバミッション展

- 【主 催】 日本聖公会北関東教区聖バルナバ・ミッションとリー女史記念事業推進委員会
- 【会 期】 2018年11月7日～11月11日
- 【会 場】 ギャラリー
- 【内 容】 ハンセン病者のために尽くしたイギリス人宣教師の生涯に関する展示

■第6回多磨全生園絵画展

- 【主 催】 多磨全生園入所者自治会、NPO法人東村山活き生きまちづくり
- 【会 期】 2018年12月15日～2019年1月27日
- 【会 場】 ギャラリー
- 【内 容】 全生園まつりで展示された、小中学生による多磨全生園内の風景を描いた絵画作品を展示

3) 2019年度企画展等の準備

2019年度春季企画展「キャンバスに集う～菊池恵楓園・金陽会絵画展」の準備を行った。

4) その他

『国立ハンセン病資料館 常設展示図録2012』の記載内容に多くの誤りが確認された問題に関して、謝罪文と正誤表を公表した。

Ⅲ 収集・保存機能

1. 資料の収集

2018年度開催および2019年度開催予定の企画展準備に付随して資料の収集を行った。また、寄贈等により、各療養所における生活資料、回復者による作品、文書資料、書籍等ハンセン病にまつわる資史料の収集を行った。

【寄贈】20件

2. 収蔵資料の保存・管理

1) 分類・整理

- ・特別収蔵庫において、写真パネルとガラス乾板、収蔵庫2において、陶芸作品の整理作業を行った。
- ・一時保管庫において、仮置き中の資料の一部について、もんじょ箱への収納と整理作業を行った。

2) 保存・管理

- ・収蔵庫増築のための調整およびそれに関わる調査を行った。
- ・展示資料の退色防止のため、常設展示室2のスポットライトをハロゲンからLEDに変更した。
- ・趙根在氏撮影のネガフィルムのデジタル化を行った。

3) 館内環境の保全

- ・収蔵エリア（特別収蔵庫、収蔵庫1・2、前室、一時保管庫）、常設展示室、企画展示室、図書室、書庫の資料保全にかかる環境調査、定期点検、クリーニング、温湿度管理等を行った。
- ・館内の資料保存環境維持のため、カビの除去や虫の侵入路の閉鎖など、問題発生時の対応を行った。
- ・館内において虫害防除のため、紫外線補虫器や隙間テープの設置、点検、情報整理および記録、薬剤散布を行った。
- ・資料の一部について燻蒸を行った。

IV 調査研究機能

1. 収蔵資料に関する調査

収蔵資料について回復者、関係者からのヒアリングを行うなど、資料情報の詳細な把握に努め、常設展示・企画展示や資料カードの作成等に反映した。

2. 企画展・催事開催のための調査研究

- ・2018年度秋季企画イベント「もうひとつの橋 ～邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベント～」に関する調査研究を行った。
- ・2018年度ギャラリー展「生誕100年 島比呂志展 一書くことは生きること」に関する調査研究を行った。
- ・2019年度春季企画展「キャンバスに集う ～菊池恵楓園・金陽会絵画展」に関する調査研究を行った。
- ・2019年度秋季企画展に関する調査研究を行った。

3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究

1) 中・長期にわたる継続的資料調査・研究活動

- ・ハンセン病療養所における視覚障がい者と在日朝鮮人運動に関する文献調査
- ・東北新生園、栗生楽泉園、駿河療養所、邑久光明園、長島愛生園の各入所者およびハンセン病体験講話の講話者からの聞き取り調査
- ・松丘保養園、大島青松園、邑久光明園、星塚敬愛園における資料調査
- ・鹿児島県知覧市内在住の回復者からの聞き取り調査
- ・多磨全生園入所者の現在の創作活動についての調査
- ・栗生楽泉園、重監房資料館、栗生楽泉園社会交流会館、リーかあさま記念館に関する湯之沢地区における調査
- ・詩人・大江光雄遺族宛の書簡に含まれるハンセン病療養所入所者からの書簡についての調査
- ・国立ハンセン病資料館収蔵室1の前室、荷解室、一時保管庫において、湿度変化の連動についての調査
- ・邑久光明園入所者自治会での文書資料調査を継続
- ・奄美和光園の現状に関する調査ならびに記録（終末期におけるハンセン病療養所に関する記憶保存の研究）

2) 学会、シンポジウム、講演会等への参加

日 程	内 容	名 称	参加者
2018年			
5月20日	「ハンセン病資料館における社会啓発課の活動について」(報告)	第14回ハンセン病市民学会教育部会学習交流会	金 貴粉
6月2日	「ハンセン病療養所における生と結 束 ～視覚障害者と在日朝鮮人～」(研究・発表)	日本文化人類学会第52回研究大会	金 貴粉
9月20日	「博物館とワークショップ ～2つの博物館の事例紹介～」(参加)	東京都三多摩公立博物館協議会第1回研修会	田代 学
12月2日～8日	フィリピン国内のハンセン病対策に関する現地視察(参加)	ハンセン病療養所医療従事者フィリピン研修	大高 俊一郎 木村 哲也
2019年			
1月23日	「博物館と学校対応 ～3つの博物館の事例紹介～」(参加)	東京都三多摩公立博物館協議会第2回研修会	稲葉 上道

3) 博物館活動全般に関連する調査研究

日 程	内 容	会 場	参加者
2018年			
7月5日～6日	文化財の虫菌害・保存対策研修会(受講)	代々木オリンピックセンター	稲葉 上道
7月13日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	江戸東京たてもの園	稲葉 上道
7月20日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	武蔵野美術大学民俗資料室	稲葉 上道
8月9日	資材梱包についての研修(受講)	物流博物館	稲葉 上道 大久保 菜央
8月24日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	練馬区立美術館	稲葉 上道 大久保 菜央
8月30日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	ガス資料館	稲葉 上道
10月4日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	府中市郷土の森博物館	黒尾 和久 稲葉 上道
10月11日	収蔵庫の管理についての調査(視察)	ブリヂストン美術館アートリサーチセンター	黒尾 和久 稲葉 上道
10月26日～28日	社会啓発活動に関する調査(視察)	岐阜県立博物館 ピースあいち 名古屋市立博物館	金 貴粉
11月20日～21日	ハンセン病回復者の作品について知見を得る(視察)	第34回架け橋美術展(奈良県御所市人権センター)	木村 哲也
12月22日～24日	語り部後継事業に関する調査(視察)	ひめゆり平和祈念資料館 南風原文化センター 沖縄県平和祈念資料館 対馬丸記念館	田代 学
2019年			
2月14日	学芸大学教授の君塚仁彦氏による「ハンセン病資料館の歴史的展開と教育活動の特質」(受講)	国立ハンセン病資料館	館内職員

日 程	内 容	会 場	参加者
2月20日	PHP研究所広報部の岩谷菜都美氏による国立ハンセン病資料館の広報活動の在り方をテーマとした講義(受講)	国立ハンセン病資料館	館内職員
3月19日	公益社団法人日本広報協会の渡邊明彦氏による国立ハンセン病資料館の広報活動の在り方をテーマとした講義(受講)	国立ハンセン病資料館	館内職員

4) 調査研究の公開

- ・2018年度春季企画展図録『この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―』を発行した(2018年4月28日)。
- ・国立ハンセン病資料館ブックレット4『橋を渡る 邑久長島大橋架橋30周年記念』を発行した(2018年11月23日)。
- ・『火山地帯』第195号に「「生誕100年 島比呂志展」を通して見えてきたこと」を木村哲也学芸員が発表した(2019年2月1日)。
- ・2019年度春季企画展図録『キャンバスに集う ～菊池恵楓園・金陽会絵画展』を発行した(2019年3月31日)。

5) 研究連携

- ・東京学芸大学との連携協力に基づくハンセン病問題解決のための社会啓発及び学校・教育プログラム開発に関する実践的共同研究に向けた協議を継続した(2015年より継続)。
- ・日本社会事業大学との連携について協議を継続した(2017年より継続)。
- ・朝鮮大学校との連携について協議を開始した。

V 情報センター機能

1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用

当館公式ホームページの保守管理・更新を行った。昨年度に引き続き広報活動の一環として企画展示等催事情報の提供、刊行物の掲載、主に若者向けイベント広報および毎月定期的を実施している学芸員による常設展示解説とガイダンス映像上映のお知らせ、閉館・休館等に関する情報の提供を行い「お知らせメール」を配信した。

また団体見学向けのプログラムについて、お客様が空き状況を確認しながらお申し込み予約が行えるよう団体受付システムの改修を終え運用を開始した。

ホームページの視聴者調査も継続して行い、次期ホームページリニューアルに備えて閲覧状況を把握し情報発信力強化に向けて充実を図った。

さらに、日本博物館協会および東京都三多摩公立博物館協議会ホームページに展覧会情報を掲載し、より多くの利用者に向けて情報を発信した。

国立ハンセン病資料館 ホームページ <http://www.hansen-dis.jp/>

2. 情報提供・検索システム関連業務

昨年度に引き続きデータベースの改良、追加を行った。図書室検索システムについては「機関誌、年報」の追加と各ハンセン病療養所社会交流会館への配布用システムの更新、資料カードの電子化に向けた実物資料データベースの制作を終え各ハンセン病療養所社会交流会館への配布を始めた。

また来館者から得られたアンケート情報のデータベース化を開始した。

3. 図書室の管理・運営

- ・新聞雑誌記事データの継続入力及び検索データ作成を行った。
- ・笹川保健財団寄贈資料整理及びデータ入力作業を行った。
- ・昨年度全国ハンセン病療養所入所者協議会より寄贈された資料の確認及びデータ入力作業を行った。
- ・長島愛生園から資料『炎樹』、『広場』、『灯泥』、『猓』、『始良野』を借用しPDF化及び複製本作成を行った。
- ・ふれあい福祉協会より依頼を受けた2017年発行のハンセン病に関する発行物のリストについて、提供を行った。
- ・2017年の各ハンセン病療養所機関誌のPDF化及び検索データ入力を行った。
- ・『キリスト新聞』1964～1969年、1970～1985年のハンセン病関連記事PDF化及び目次データ化を2回に分けて行った。
- ・図書館システム「FACIL」の検索出力条件の項目追加の作業及びプログラムカスタマイズを行った。

- ・図書室入口ゲート保守点検作業を2回行った。
- ・平沢保治さんとロバート・キャンベルさんの対談番組の撮影を図書室で実施するにあたり、撮影時間中を臨時休室とした。
- ・草津聖バルナバ教会より発行の旧『高原』、『なぐさめぬし』を借用しPDF化及び複製本の作成を行った。
- ・山陽放送に毎年継続の寄託書類を送った。
- ・各ハンセン病療養所資料検索に長島愛生園の資料を追加した。
- ・各ハンセン病療養所発行機関誌及び年間購読雑誌の合冊製本を行った。
- ・次年度洋雑誌2タイトルの購読継続手続きを行った。
- ・全国博物館総覧台帳の2018年分の加除作業を行った。
- ・機関誌検索性PCの自動開閉システムの設定を行った。
- ・当館所蔵の新聞切抜「評論・文化編」「組織・人名編」「事件・運動編」のPDF化及び目次データ化を行った。
- ・駿河同人誌『芙蓉』、『山椒』、『文芸集報』のPDF化を行った。
- ・書庫・閲覧室の蔵書点検を行った。
- ・新聞雑誌記事クリアファイル固定のために棚全体にパンフレットファイルを配架した。
- ・逐次、新刊図書、古書を購入・受贈蔵書の充実を図るとともに、それらの登録・配架、来館者へのレファレンス、研究支援等情報提供、蔵書に関連する情報の収集等を行った。また、映像資料の収集および室内での公開を行った。
- ・希望者に対し啓発活動に用いる絵本『すみれ』、『かわいいポール』の配送及び提供を行った。

■ 2018年度月別図書室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開室日数	25	25	25	25	26	25	25
新規資料受入数	69	152	220	184	141	131	77
レファレンス件数	11	6	6	5	17	7	13
利用者数	285	258	290	434	433	299	401
資料出納数	4	50	1	12	19	10	29
資料複写件数	74	65	37	69	105	50	78
新規登録者数	6	11	6	2	4	6	4
外部貸出冊数	51	52	40	41	31	40	60

	11月	12月	1月	2月	3月	計
開室日数	25	22	23	23	25	294
新規資料受入数	168	147	50	57	107	1503
レファレンス件数	10	2	2	10	8	97
利用者数	311	293	175	319	341	3839
資料出納数	7	9	6	16	6	169
資料複写件数	93	119	42	387	44	1163
新規登録者数	5	3	4	7	3	61
外部貸出冊数	35	22	39	34	36	481

Ⅵ 管理・サービス機能

1. 施設管理・運営

1) 施設整備

館内ゴキブリ防除、屋上庭園の植物補植、窓ガラス清掃、床ワックス塗り等の特別清掃等の環境整備を行った。また、収蔵庫の空調機器点検・調整、展示室ハロゲンランプ交換、展示室結露・水漏れ対策等を行った。企画展示室・研修室のパブリックビューイングのための機器設置を行った。この他、設備全般の定期点検、メンテナンスを随時行った。

2) 情報機器定期保守

- ・毎月下旬の2日間に情報機器定期保守作業を実施した。
- ・機器の老朽化に備えて図書閲覧コーナーのリプレイス、映像ホール舞台映像の他室での共聴設備を設置した。

3) 事業費管理

国立ハンセン病資料館の事業費管理を行った。2018年度運営費は448,988,836円。

2. アンケートの実施

来館者の意見を収集し今後の活動に資するため、アンケートを実施した。

3. 施設貸出

ハンセン病に関する学習の場としての活用を図るため、下記のとおり施設貸出を行った（事前申込制）。

【ギャラリー】 3件（展示）

【研 修 室】 43件（研修会、講座、座談会等）

【映像ホール】 25件（研修会、上映会、演奏会等）

Ⅶ 企画調整機能

1. 広報活動

1) 資料館だよりの発行

「Ⅰ 教育啓発機能 5. 印刷物の発行・配布」を参照。

2) ホームページの管理・運営

「Ⅴ 情報センター機能 1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用」を参照。

3) その他の広報

事業の案内・周知を図るため印刷物の発行ならびに各種報道機関、近隣自治体の広報誌、社会福祉協議会広報誌等への広報依頼を行った。また近隣の交通機関に看板等を設置し利用者への周知をはかった。

■報道

- ・テレビ3件、新聞105件、インターネットニュース等3件において資料館の紹介、催事等の報道がなされた。(施設貸し出しに伴う催事を含む。)

■広報(広告、その他)

- ・春季企画展について、西武新宿線、西武池袋線の車内窓上ポスター、駅貼りポスター(西武池袋線清瀬駅・秋津駅、西武新宿線久米川駅)の掲出等を行った。
- ・西武池袋線清瀬駅、西武新宿線久米川駅・所沢駅に額面看板を掲示した(継続)。
- ・JR武蔵野線新秋津駅に額面看板を掲出した(継続)。
- ・西武池袋線清瀬駅南口2番バス停に額面看板を掲出した(継続)。
- ・小学館HP「まなナビ」にハンセン病体験講話の開催情報を掲載した。
- ・当館Facebookにおいて催事等の開催案内を行った。
- ・管理運営団体である日本財団のFacebook、メールマガジン等を通してイベントの案内を行った(継続)。
- ・お知らせメールの配信を継続して行った。

2. 博物館施設、関係諸機関との連携

他の博物館施設や専門図書館との交流促進のため、以下の組織に加盟している。

- ・日本博物館協会
- ・東京都博物館協議会
- ・三多摩公立博物館協議会
- ・医学図書館協会
- ・日本患者図書館協会

Ⅷ 2018年度利用状況

1) 開館日数

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）の開館日数は、306日であった。

2) 入館者数

2018年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数(人)	開館日(日)	1日平均(人)
4月	3,276	26	126.00
5月	2,139	26	82.27
6月	3,242	26	124.69
7月	2,864	26	110.15
8月	2,345	27	86.85
9月	2,333	26	89.73
10月	3,164	26	121.69
11月	3,003	26	115.50
12月	2,035	23	88.48
1月	1,774	24	73.92
2月	2,265	24	94.38
3月	3,017	26	116.04
合計	31,457	306	102.80

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

※入館者数31,457人のうち、個人が14,629人、団体が16,828人(485団体)

第 2 部 重監房資料館

第1章 重監房資料館の概要

I 目的・理念・機能

【目的】

特別病室（重監房）の収監に関しては、その運用や手続きなど未だに不明な点が多くある。重監房資料館は、こうした特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する資料の収集・保存と調査・研究の成果を発表することにより、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促すことで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

【理念】

重監房資料館は、特別病室（重監房）を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育む。

【求められる資料館像】

- ①特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに情報や知識を普及啓発する拠点施設。
- ②特別病室（重監房）での過酷な歴史や悲惨な出来事を、想像力をはたかせながら体感することができ、その苛酷さ・悲惨さが伝わる施設。
- ③年間を通じて開館し、将来にわたって活動を継続できる施設。
- ④特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する資料を収集・展示・保存できる施設。
- ⑤誰もが見学できる施設。
- ⑥地域の方々がかかわり、世代を超えて支えられる施設。

【機能】

■歴史継承機能

資料の散逸を防ぎ、歴史とともに後世に伝えるため、特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに、資料を収集・保存する。

■普及啓発機能

調査研究の成果を一般に提供し、人権学習の支援を行う。

■再現・展示機能

[重監房原寸部分再現]

原寸部分再現により、特別病室（重監房）の過酷さや悲惨さを感じられるようにする。

[展示]

特別病室（重監房）の全体像を示す縮小模型や証言映像、調査研究の成果などを公開する。

■情報発信機能

特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する情報の受発信と集積を行い、特別病室（重監房）や重監房資料館について広く知らせる。

■管理機能

円滑な施設運営を行うとともに、来館者の利便を図る。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

重監房資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために協議を行う。委員の委嘱は、資料館長が行う。事務局は、日本財団が担当する。

2) 2018年度委員（敬称略）

委員長	黒岩 信忠	（栗生楽泉園とまちの明日を創る会会長、草津町長）
委員長代理	沖津 則夫	（草津町愛町部福祉課長）
	鮎京真知子	（弁護士、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国弁護団連絡会）
	上坂 国由	（草津町議会 民教土木常任委員会委員長）
	岸 従一	（栗生楽泉園入所者自治会副会長兼厚生常任）
	黒尾 和久	（重監房資料館部長）
	杉原 信二	（弁護士、群馬弁護士会会員）
	津久井 智	（群馬県健康福祉部保健予防課長）
	羽部 光男	（栗生楽泉園とまちの明日を創る会構成員）
	藤田三四郎	（栗生楽泉園入所者自治会会長）
	松岡 正典	（元WHOハンセン病テクニカルアドバイザー）
	宮坂 道夫	（新潟大学医学部教授）
オブザーバー	望月 博孝	（栗生楽泉園福祉課長）
	元村 仁	（厚生労働省健康局難病対策課課長補佐）

3) 開催日

- 第1回 2018年 4 月11日
- 第2回 2018年 6 月29日（中止）
- 第3回 2018年11月16日
- 第4回 2019年 3 月20日

Ⅲ 重監房資料館管理運営規程

（目的）

第1条 この規程は、重監房資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

（事業）

第2条 資料館は、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律（平成20年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、特別病室（重監房）を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育むため、次に掲げる事業を行う。

（1）歴史継承事業

特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する資料の収集・保存や調査研究活動を通じて貴重な資料の散逸を防止することで後世に伝承すべき歴史資産を適切に管理するとともに、知見の蓄積に基づく研究成果を発表することで重監房資料館の存在意義を広く認知させる活動を行う。

（2）普及啓発事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果を、普及・啓発を通じて一般に示し、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

（3）再現・展示事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果のうち公開可能な物を展示することにより、特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する理解促進とハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

（4）情報発信事業

資料館の事業を広く一般に周知するとともに、活動内容を公開することでハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

（5）管理機能事業

資料館を円滑に運営し、利用者の利便性に配慮した活動を実施する。

（年間事業計画）

第3条 重監房資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

（休館日及び開館時間）

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

(2) 開館時間

フルオープン期間（4/26～11/14）：午前9時30分から午後4時まで（入館は午後3時30分まで）

団体専用期間（11/15～4/25）：午前10時00分から午後3時30分まで（入館は午後3時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

（入館料）

第5条 資料館の入館料は無料とする。

（入館の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれのある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

（入館者への指導）

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

（損害賠償）

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損、汚損又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

（資料等の亡失・損傷）

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の損害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策を指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規程は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規程は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

第16条 この規程の定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

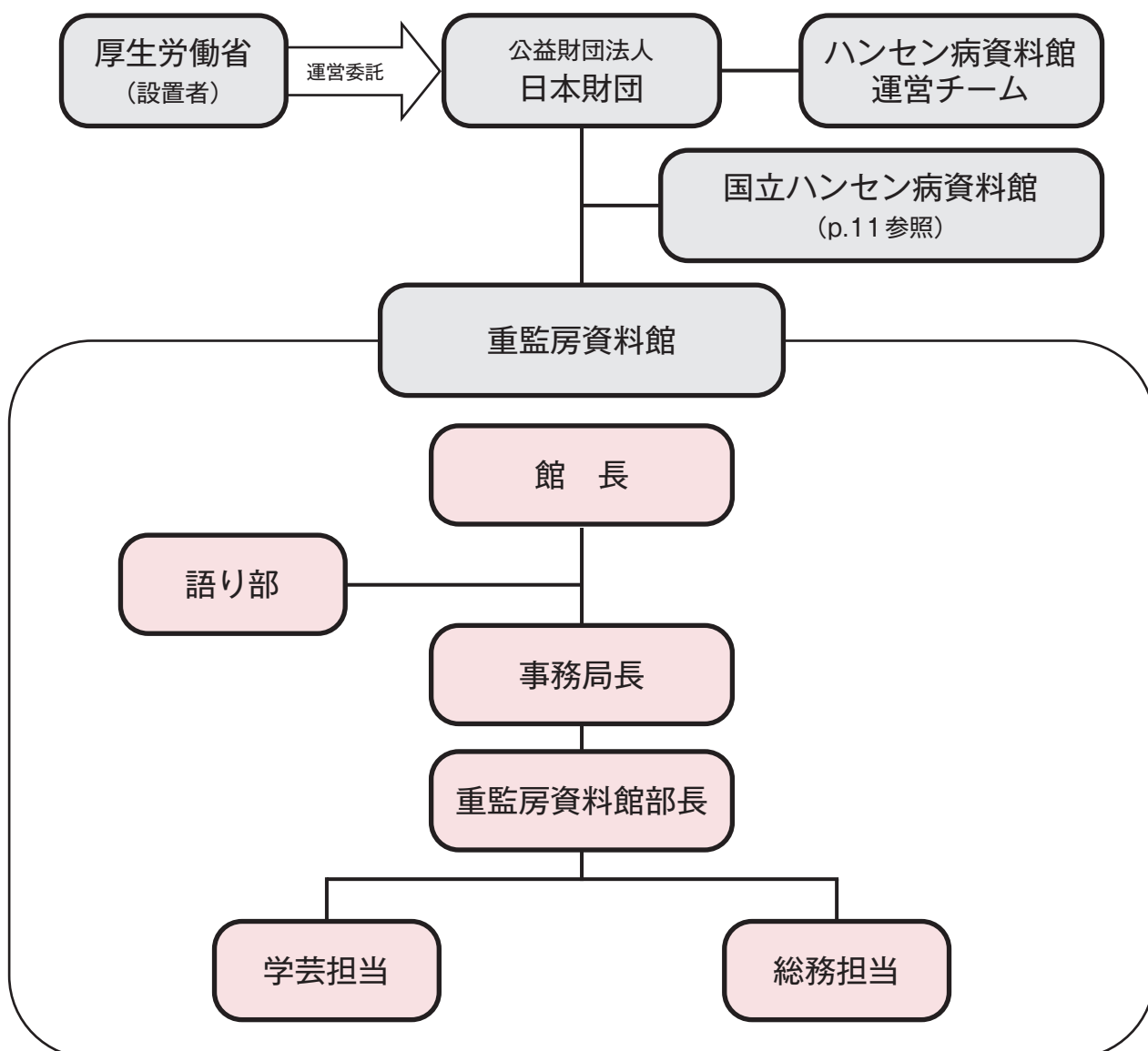
附 則

この規程は、2014年4月30日から施行する。

この規程は、2016年7月1日から施行する。

IV 組織

■組織図



- ・学芸担当は、歴史継承機能業務、普及啓発機能業務の一部、再現・展示機能業務、情報発信機能業務の一部を担当。
- ・総務担当は、普及啓発機能業務の一部、情報発信機能業務の一部、管理機能業務を担当。

■職員名簿 2019年3月31日現在

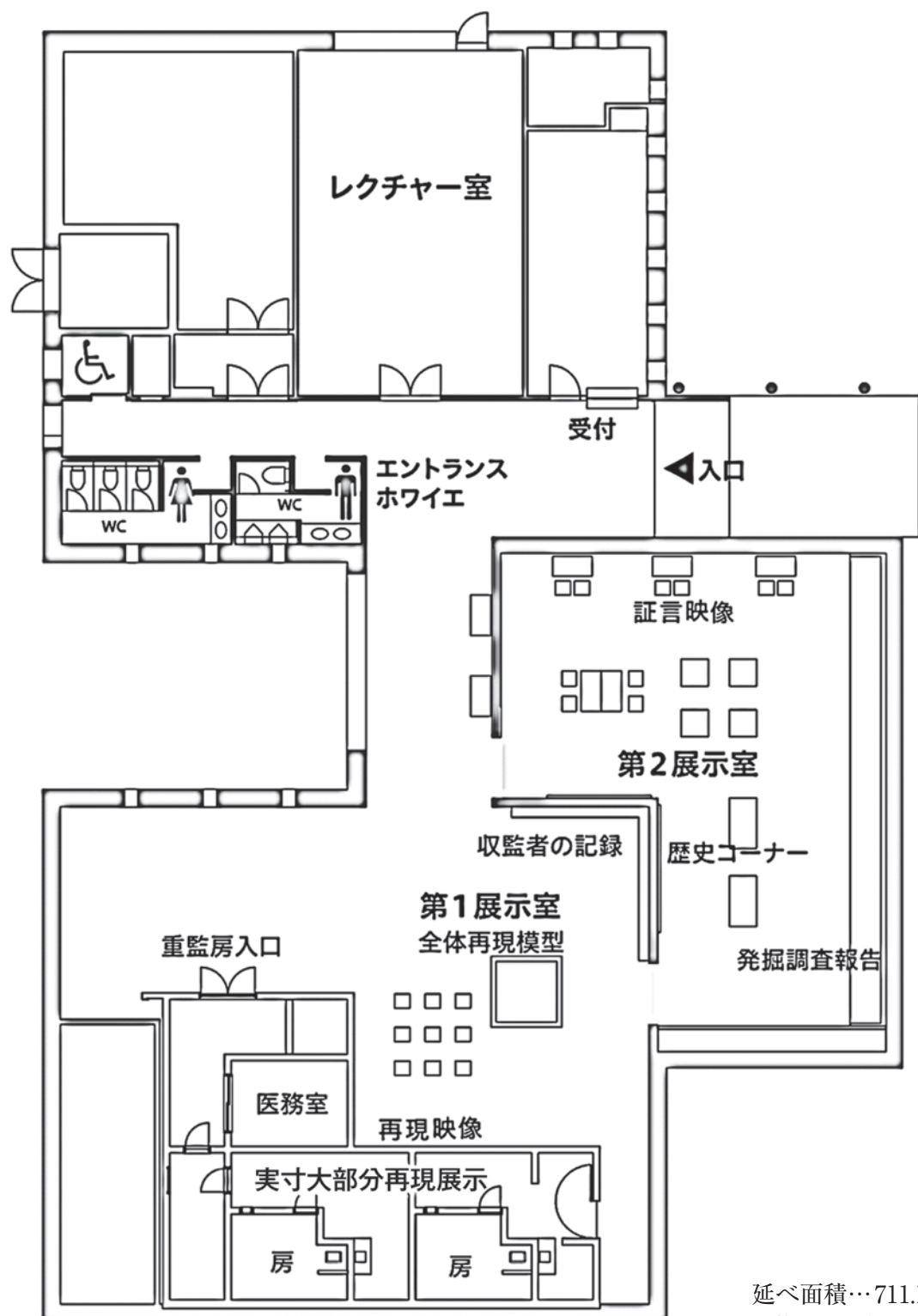
- ・館長 成田 稔 (国立ハンセン病資料館長兼務)
- ・事務局長 飯塚 賢治 (国立ハンセン病資料館事務局長兼務)
- ・重監房資料館部長 黒尾 和久 (学芸員)
- ・学芸担当 学芸員 主任 北原 誠
- 〃 柏木 亨介
- ・総務担当 主任 香川 進司
- 庶務 黒岩富美子

V 沿革

2004年	栗生楽泉園・重監房の復元を求める会が、特別病室（通称重監房、以下「重監房」と表記）跡地の保存と復元を求める107,101人分の署名を国（厚生労働省）に提出（6月）。
2008年	2007年度ハンセン病問題対策協議会において、歴史的建物・資料の保存・復元等については、重監房を優先課題として取り上げることになる（3月）。
	第169回通常国会において「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が可決・成立、公布される。この法律によって国立のハンセン病資料館の設置や歴史的建造物の保存に法的根拠が与えられた（6月18日公布、翌年4月1日施行）。
	2008年度ハンセン病問題対策協議会において重監房復元、重監房跡地の保存については、国の責任で行うことになる（12月）。
2011年	2010年度ハンセン病問題対策協議会において国（厚生労働省）は重監房再現・展示施設の建築に必要な予算獲得に努めることになる（3月）。
2012年	重監房再現・展示施設の実施設設計経費を盛り込んだ政府の2012年度予算が成立（4月）。
	ハンセン病資料館等運営企画検討会・歴史的建造物等保存作業部会の重監房再現ワーキンググループが、「重監房再現に関する基本計画書」をとりまとめる（5月）。
2013年	重監房資料館の施設整備費及び展示制作費を盛り込んだ、政府の2013年度予算が成立（4月）。
	厚生労働省が「重監房資料館整備工事」の入札公告を公表（5月）。神宮工業が落札。
	「重監房資料館整備工事」着工（6月）。
	厚生労働省が「重監房資料館展示制作」の入札公告を公示（7月）。丹青社が落札。
	国立ハンセン病資料館の協力のもと、厚生労働省が重監房跡地の発掘調査を実施（8月～9月）。出土遺物は、東京都埋蔵文化財センターに保存処理を依頼。
	2013年度ハンセン病問題対策協議会において重監房資料館と跡地の維持・管理、人的体制の整備は国の責任で行うことを確認（10月）。
	国立ハンセン病資料館内に重監房資料館開設準備室を設置。学芸員と事務員各1名が配置される（12月）。
	展示、ホームページ、パンフレット、チラシ等の企画・作成を行う（12月～翌年4月）。
2014年	厚生労働省が重監房資料館の管理運営を盛り込んだ「ハンセン病対策事業（資料館運営等委託分）」の企画競争を公表（1月28日公示）。
	厚生労働省の主催により、前橋市の群馬県民会館でシンポジウム「重監房とは何だったのか ハンセン病隔離政策の“負の遺産”を考える」を開催（3月）。
	公益財団法人日本科学技術振興財団が重監房資料館の管理運営事業受託者となる。開設準備室を草津町の建設地内仮事務所に移動。学芸員及び事務員が草津に着任（4月）。
	「重監房資料館整備工事」竣工（4月）。
	厚生労働省から管理運営事業受託者に重監房資料館の建物が貸与され、展示資料の搬入を行う（4月）。
	重監房資料館開館記念式典を挙行。グランドオープン。ホームページを公開（4月）。
	重監房跡地に見学者用の手すりとウッドデッキを整備する工事を行う（10月～翌年3月）。
	厚生労働省により、重監房の遺構基礎構造の調査が行われる（11月～翌年3月）。
2015年	東京で開催された「グローバル・アピール2015」を記念したイベント、「現在・過去・未来…当事者の想い」（パネルディスカッション、子どもたちの空手演武、コンサート）を開催（1月）。
	重監房跡地の見学デッキの一般公開を開始（4月）。

2015年	来館者1万人達成セレモニー開催(6月)。
	重監房跡地の展望台の一般公開を開始(7月)。
	「語り部の日」を実施(7月～11月)。
	企画展「沢田五郎特別展」開催(10月～11月)。
2016年	重監房資料館の管理運営事業受託者が公益財団法人日本財団に変更となる(4月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣(6月)。
	第89回日本ハンセン病学会総会・学術大会(草津)開催事務局として支援(6月)。
	休館日を週2日から、週1日に変更(7月)。
	戦後、米軍の撮影した空中写真中に重監房を発見(7月)。
	「語り部の日」の実施(7月～11月)。
	企画展「人間笹雄二」開催(10月～11月)。
	ドキュメンタリー映像「熊笹の尾根の生涯 一人間笹雄二・ハンセン病とともに生きる」制作(10月～11月)。
2017年	重監房新画像発見(5月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣(6月)。
	栗生楽泉園監禁室鍵発見(7月)。
	企画展「それは百年前に始まった」開催(7月～8月)。
	門衛跡地発掘調査(10月～11月)。
	門衛跡地発掘調査、報道関係者内覧会(11月)。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)大型写真パネルの制作、関係者内覧会(2月)。
2018年	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)展示公開(4月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣(6月)。
	企画展「隔離のなかの隔離 ーハンセン病療養所監禁室の内部ー」開催(7月～8月)。
	門衛柱屋外展示除幕式開催(7月)。
	来館者3万人達成セレモニー開催(7月)。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施(8月)。
	シャトルタクシー(草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎)実施(8月)。
	調査報告書「門衛所跡の発掘調査」発行(3月)。

VI 施設概要



延べ面積…711.15㎡
 第1展示室…240㎡
 第2展示室…139.5㎡
 レクチャー室…71.4㎡
 収蔵庫…50.32㎡

第2章 2018年度事業

I 歴史継承機能

1. 資料の収集・保存

1) 書籍・古典籍等

- ・国立ハンセン病資料館、国会図書館において、全国ハンセン病療養所関係書籍等の収集を行った。
- ・古文書等の資料を購入し収集・保存した。

2) ハンセン病政策およびハンセン病療養所に関する遺物等

- ・国立療養所栗生楽泉園入所者等から寄贈された資料を収集・保存した。
- ・全国及び海外のハンセン病関連施設等で得られた資料を収集・保存した。

3) その他

- ・旧湯之沢部落周辺地域の生活習慣に関する記録の収集（写真撮影等）を行った。
- ・試掘調査やサンプル採取によって得られた資料を収集・保存した。
- ・門衛発掘調査で得られた資料を収集・保存した。

2. 屋外展示（跡地）環境の保全

1) 跡地見学環境整備

- ・雑草の駆除を実施した。
- ・枯葉の除去を実施した。

2) 跡地見学者用デッキ及び見学スペース一般公開

- ・一般公開を継続した。（2018年4月26日～11月14日）

3) 展望台一般公開

- ・一般公開を継続した。（2018年4月26日～11月14日）

3. 調査・研究

1) 特別病室（重監房）に関する調査・研究

- ・特別病室（重監房）の入り口付近にあった門衛所跡地の発掘調査を行った。
- ・「門衛所跡の発掘調査」発行。（1,000部 2019年3月19日）
- ・「重監房跡の発掘調査」増刷。（1,000部 2019年3月23日）
- ・前年度に引き続き、特別病室（重監房）遺構基礎構造調査を行った。

2) ハンセン病政策・ハンセン病療養所史

- ・須賀川市立博物館において、服部けさに関する資料調査を行った。(2018年6月16日～18日)
- ・宮内公文書館において、ハンセン病療養所内の皇室関係文化財に関わる資料調査を行った。(2018年9月12日、2019年3月18日)

3) 患者および回復者(入所者・退所者)等の生活

- ・四国遍路関連史跡(善通寺、金刀比羅宮、観音寺)および大島青松園において、患者および回復者が信心する寺社仏閣調査を行った。(2018年10月20日～25日)

4) 歴史的建造物・史跡・記念物の保存対策

- ・邑久光明園、長島愛生園において、歴史的建造物(登録文化財)の保存方法について調査を行った。(2018年6月5日～8日)
- ・国立ハンセン病資料館、国立国会図書館、宮内公文書館において、歴史的建造物の保存方法について調査を行った。(2018年9月12日～14日)
- ・星塚敬愛園において、歴史的建造物(史跡)の保存方法について調査を行った。(2019年1月20日～23日)
- ・菊池恵楓園および同園社会交流会館において、医療刑務所跡の保存について意見交換と基礎調査を行った。(2019年3月4日～6日)
- ・栗生楽泉園青年会館の歴史的建造物修復に関する助言を行った。

4. その他

- ・国立ハンセン病資料館、国立国会図書館、国立公文書館において、資料調査を行った。(2018年4月7日、10月27日)
- ・菊池恵楓園、本妙寺、コール館、リデル、ライト両女史記念館において、企画展のための資料調査を行った。(2018年4月14日～20日)
- ・邑久光明園、長島愛生園において、企画展のための資料調査を行った。(2018年6月5日～8日)
- ・国立ハンセン病資料館において、企画展のための資料調査、パネル製作を行った。(2018年7月11日～12日、9月12日～14日)
- ・小平市中央図書館において、資料調査を行った。(2018年10月15日)
- ・国立国会図書館において、翌年度企画展に関わる調査として、朝鮮における衛生調査資料および台湾における民族資料の収集を行った。(2018年11月10日、12日)
- ・大韓民国全羅南道高興郡小鹿島病院他において、翌年度企画展のための調査を行った。(2018年12月5日～10日)
- ・台湾楽生療養院、国立台湾大学図書館、国家図書館、中央研究院他において、企画展のための資料調査を行った。(2018年12月5日～10日)
- ・草津周辺におけるハンセン病関連の施設、古地図等の資料調査を行った。(2016年より継続中)

Ⅱ 普及啓発機能

1. 調査・研究成果の発表

1) 学会発表等

- ・日本考古学協会第84回総会において、黒尾和久部長が「隔離の記憶を掘る ―全生病院の堀・土塁、築山の考古学的調査―」と題する発表を行った。(2018年5月26日～27日)
- ・第91回日本ハンセン病学会総会・学術大会において、北原誠主任学芸員が「ハンセン病療養所入所者の葬儀と宗教観に関する一考察」と題する発表を行った。また、柏木亨介学芸員が「ハンセン病療養所における監禁室 ―設置時期と目的―」と題する発表を行った。(2018年6月13日～15日)
- ・第30回ハンセン病コ・メディカル学術集会において、北原誠主任学芸員が「ハンセン病問題の歴史を正しく理解するために ―近現代の草津温泉を中心として―」と題する特別講演を行った。また、柏木亨介学芸員が「ハンセン病療養所の奉安殿 ―職員側の歴史を伝える建造物―」と題する発表を行った。(2018年9月28日～29日)

2) その他

- ・日本民俗学会第70回年会に参加し、マイノリティ研究の最近の傾向について知見を得た。(於：駒澤大学 10月13日～14日)
- ・日本民俗学会第901回談話会に参加し、韓国人研究者と交流の機会を持ち、小鹿島病院調査の助言を受けた。(於：成城大学 11月11日)

2. 語り部活動

語り部活動が栗生楽泉園社会交流会館へ移管されたこと及び語り部の健康上の理由から、「語り部の日」の実施は見送られた。

3. 人権学習の支援

1) 行政機関等に対する協力

- ・群馬県ハンセン病パネル展において展示解説を行った。(2018年6月20日～22日)
- ・新潟県佐渡市市民生活課主催の第6回佐渡人権展（パネル展）において、「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講演およびパネル貸出しを行った。(於：佐渡市佐渡中央会館、2018年7月7日)
- ・群馬県伊勢崎市教育委員会生涯学習課主催の「伊勢崎市地区別人権学習会」において、「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講演を行った。(於：伊勢崎市茂呂公民館、2018年10月23日)
- ・石川県穴水町教育委員会主催の「平成30年度穴水町男女共同参画人権教育講演会」において、講演「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講

演を行った。(於：穴水町さわやか交流館ブルート、2018年11月15日)

- ・長野県教育委員会および長野市立三本柳小学校共催の「南長野人権教育連絡協議会」においてパネル貸出しを行った。(於：長野市立三本柳小学校、2018年12月6日)
- ・群馬県高崎市人権男女共同参画課主催の「平成30年度たかさき高浜人権プラザ人権公開講座」において、「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講演を行った。(於：たかさき高浜人権プラザ、2019年1月26日)
- ・群馬県高崎市人権男女共同参画課主催の「平成30年度たかさき人権プラザ第4回人権公開講座」において、「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講演を行った。(於：たかさき人権プラザ、2019年1月26日)
- ・群馬県玉村町生涯学習課主催の玉村町職員人権研修において、「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した講演を行った。(於：玉村町文化センター、2019年2月5日)
- ・「平成30年度ハンセン病問題対策促進会議」において、「重監房資料館の機能と使命 ―「特別病室」を負の遺産として後世に伝える―」と題した講演を行った。(於：厚生労働省、2月13日)

4. 普及啓発のための映像制作活動

- ・遺族証言映像「遺族二人 ―ハンセン病差別と向き合う―」(仮題)制作
ハンセン病をめぐる差別と偏見を元入所者(故人)の遺族の視点から、患者および回復者とその家族に対する偏見・差別の根深さを問うドキュメンタリー映像制作を開始した。より幅広い視野でハンセン病問題を理解することに役立ち、普及啓発の充実に図る。令和元年度中の一般公開を目指した証言映像制作のため、現地ロケによる撮影を行った。(制作期間：2018年4月6日～2019年3月31日 撮影場所：長島愛生園、邑久光明園、大島青松園、草津町)

5. 執筆活動

1) 新聞・広告誌等

- ・「草津町勢要覧 2018年度」の栗生楽泉園及び湯之沢集落等に関して、北原誠主任学芸員が執筆した。(2018年4月)
- ・群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会機関紙『人間』において、「重監房資料館の「これまで」と「これから」」と題して北原誠主任学芸員が執筆した。

2) 雑誌・書籍等

- ・『高原』(栗生楽泉園入所者自治会発行、2018年4月号～2019年3月号)に掲載する日本文化のなかのハンセン病をテーマとした連載記事を、柏木亨介学芸員が執筆した。(継続中)
- ・『考古学ジャーナル』(ニュー・サイエンス社発行、2019年3月号)の遺跡速報において、「隔離の記憶を掘る～国立ハンセン病療養所・多磨全生園における発掘調査～」と題して、黒尾和久部長が執筆した。

3) 論文・報告書

- ・「国立ハンセン病資料館の設立と存在意義」(『博物館研究 vol.53 No.12』(14-15頁) 日本博物館協会発行、2018年11月25日)において、黒尾和久部長が執筆した。

6. イベントの開催

- ・開館以来の来館者数が3万人に到達したことを記念して、岸従一氏(当館運営委員、栗生楽泉園入所者自治会副会長)より3万人目の来館者に記念品を贈呈した。(2018年7月29日)
- ・ハンセン病者の歴史と密接な関わりを持つ草津町内に点在するハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で徒歩で巡るウォーキング・ツアーを開催した。

実施日: 2018年8月4日、8月12日、8月18日、8月26日

コース: 草津温泉バスターミナル→光泉寺→湯畑→旧湯之澤区(大滝の湯、中和工場)→リーカあさま記念館→頌徳公園→八十八ヵ所→湯之澤共同墓地及びリー女史墓所→保育所跡→重監房跡→栗生神社→重監房資料館→納骨堂→社会交流会館→解散(所要時間約6時間)

参加者数: 42名 ボランティアガイド: 2名

- ・不便な位置にある重監房資料館への来館の促進と、夏休み期間の親子の来館増加を目的に、シャトルタクシー(ジャンボタクシー: 9人乗り)で草津温泉バスターミナル駅からの往復を送迎運行した。

実施日: 2018年8月4日～8月26日

コース: 草津温泉バスターミナル～栗生楽泉園～重監房資料館(最大3往復/日)

利用者数: 143名(延べ)

7. 学校教育支援活動

1) 学校教育への支援

- ・中之条町立六合小学校第5学年の校外人権学習の支援を行った。(2018年9月26日)
- ・群馬県立嬬恋高等学校第1学年の校外人権学習の支援を行った。(2018年10月16日)
- ・草津町立草津小学校第6学年の校外人権学習の支援を行った。(2018年12月4日)
- ・草津町立草津中学校第2学年の校外人権学習の支援を行った。(2018年12月5日)
- ・群馬医療福祉大学看護学部藤岡キャンパスにおいて、北原誠主任学芸員が「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した特別講演を行い、語り部として岸従一氏(当館運営委員、栗生楽泉園入所者自治会副会長)が体験講話を行った。(2018年10月18日)
- ・福島県立医科大学医学部生命倫理公開講座「感染症対策と人権」において、北原誠主任学芸員が「ハンセン病の歴史と人権 ―ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために―」と題した特別講演を行った。(2018年12月12日)

2) 学校・教育委員会への広報活動

群馬県内および群馬県に隣接する各県の市町村教育委員会や人権関連部署、PTA関連組織を訪

問し、人権教育における重監房資料館の活用促進の要請を行った。

- ・長野県（千曲市、長野市、小布施町、長野県PTA連合会）、栃木県（宇都宮市、鹿沼市、日光市、野木町）、埼玉県（上尾市、桶川市、北本市、さいたま市、東松山市、小川町、吉見町、埼玉県PTA連合会）を訪問した。（2018年12月上旬～中旬）

3) 学校団体来館

- ・小学校、中学校、専門学校、大学計44団体、1,047人が来館（全団体の3割）。
- ・近隣の学校では、中之条町立六合小学校（2018年9月26日）、群馬県立嬬恋高等学校（2018年10月16日）、草津町立草津小学校（2018年12月4日）、草津町立草津中学校（2018年12月5日）、が来館。

8. 広報活動

1) レンタルDVDの貸出

- ・当館PR・DVD「重監房資料館への道」を作成し、随時貸出を行った。

2) 観光施設、観光輸送機関に対する広報活動

- ・群馬県内の観光関係施設（観光協会、旅館組合、駅、商工会、道の駅、博物館、集客施設等）を中心に随時訪問し、重監房資料館のPRについて協力要請を行った。

9. 栗生楽泉園との連携

1) 栗生楽泉園・重監房資料館双方を見学する来館者への対応

- ・栗生楽泉園と重監房資料館の両方を見学する来館者対応について、栗生楽泉園福祉課の見学担当者との連絡を励行した。

2) 栗生楽泉園新採用者オリエンテーションへの協力

- ・4月1日付採用職員に対し、映像と展示資料を用いてハンセン病問題と特別病室（重監房）の歴史を解説した。（2018年4月5日）。

3) その他

- ・栗生楽泉園技術審査委員会に第三者委員として、北原誠主任学芸員が参加し、技術審査に協力した。（2016年度より継続中）

10. その他

- ・中華民国（台湾）衛生福利部楽生療養院院長他による栗生楽泉園ならびに当館視察の案内を行った。（2018年11月23日～25日）

Ⅲ 再現・展示機能

1. レクチャー室

1) ガイダンス映像の上映

- ・一般向けにハンセン病問題を解説した「重監房の記憶」を上映した。(約25分)
- ・小・中学生向けのガイダンス映像「楽泉園の子供たち」を上映した。(約18分)

2) その他の利用

各種研修・学習会等に利用した。(年4回)

2. エントランス・ホワイエ

1) ハンセン病に関する展示

ハンセン病について解説したパネルと治療薬の展示及び「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)の展示を行った。

2) 普及啓発コーナー

新聞や雑誌の関連記事とともに、関係啓発施設や近隣災害情報、厚労省の公報等、必要なお知らせについて掲示した。

3. 常設展示

1) 第1展示室

■特別病室(重監房)のジオラマ

縮尺20分の1の再現模型を展示し、特別病室(重監房)の全体像や立地の俯瞰的学習を可能にした。

■収監者のパネル

93人の収監者のプロフィールをパネル化し、時系列に沿って展示することで、収監実態が分かるよう工夫した。

■再現映像の上映

現存する資料や入所者の証言に基づき、収監者の特別病室(重監房)内での様子を再現した映像を上映した(約8分)。

■実寸大で部分再現された「特別病室(重監房)」の内部

医務室や独房につながる通路、夏と冬のふたつの独房を実寸大で忠実に再現した。また、学芸員が同行する館内ガイドツアーでは、見学者は実際に再現された独房の内部に入り、扉の閉鎖や施錠された時の絶望感を体感できるようにした。加えて、立地条件をリアルに体験できるよう、昼間と夕暮れの日差しの雰囲気照明機器を自動的に調整し、臨場感を演出した。

2) 第2展示室

■ハンセン病問題の年表

我が国におけるハンセン病問題にまつわる主な出来事を、明治時代以降を年表にして時系列に揭示した。また、日本ニュース社が昭和22年に撮影した実際の特別病室（重監房）の映像視聴をできるようにした。

■出土遺物発掘報告コーナー

遺物を通して特別病室（重監房）の過酷さを伝えることを目的に、特別病室（重監房）跡地の発掘調査によって出土した遺物と解説パネルの展示を実施した。南京錠の実物大写真、独房内の便槽写真、建材である木片、弁当箱、差し入れ品などを展示した。

■証言映像コーナー

複数の元患者の証言映像視聴をできるようにした。

3) 常設展示の更新

■エントランスホワイエ

- ・普及啓発コーナーにおいて、情報提供スペース、図書閲覧コーナー、ハンセン病解説パネルの配置換えを行った。

- ・「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」（重監房を含む）の展示公開を行った。

前年度に発見された特別病室（重監房）の写真は、昭和20年代の栗生楽泉園の全景を写した3枚組写真の一部であることが判明した。その3枚の写真を合成し、縦1.2m×横3.6mの大型パノラマ写真パネルを制作し、完成したパノラマ写真パネルは、除幕式の後、即日一般公開した。（除幕式・公開日2018年4月30日）

4. 企画展示

- ・企画展「隔離のなかの隔離 ―ハンセン病療養所監禁室の内部―」を開催した（来館者数：1,107人）。

ハンセン病療養所に隔離政策によって入所した患者は、園内規則を破ると、さらに園内にある監禁室へ送られた。監禁室の室内に関する資料を通して、入所者の目線から往時の過酷な状況を伝える企画展示「隔離のなかの隔離 ―ハンセン病療養所監禁室の内部―」を開催した。

（2018年7月18日～8月19日）

5. その他

- ・門衛柱公開

特別病室（重監房）の監守を兼務した守衛の詰め所であった門衛所について、2017年3月から発掘調査が行われてきたが、発見された門衛所の柱について除幕、公開を行い、当時のハンセン病療養所の景観を明らかにすることにより、歴史的事実の普及啓発を図るため、屋外展示を行った。（除幕式・公開日2018年7月19日）

- ・照明技術者と展示室およびエントランス・ホワイエ周辺の照明器材、空間演出方法について再考した。（2019年3月13日、28日）

- ・児童向け監禁室模型製作を開始した。（市販玩具ブロック購入）（2018年11月より継続中）

IV 情報発信機能

1. ホームページ

- ・新着情報の追加掲載、外部へのリンク追加等を行った。
- ・その他、各ページのメンテナンスを行った。

重監房資料館 ホームページ <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

2. 広報資料の作成・発行

- ・資料館だより『くりう』No.13～No.14を発行した。(2018年8月1日、2019年1月1日 各10,000部)
各ハンセン病療養所、関係者、関係機関、団体に合計約6,500部を配布した。
- ・資料館リーフレットを増刷した。(2018年5月31日 10,000部)
- ・資料館中国語リーフレットを作成した。(2019年2月15日 3,000部)
- ・資料館チラシを増刷した。(2018年11月22日 10,000部)

3. マスコミ対応

- ・マスコミ各社からの取材対応を行った。
テレビ、ラジオ 3社
新聞社 11社

4. その他

- ・来館者希望者や旅行会社等に対し、リーフレット、チラシ等を送付した。(随時)
※広報活動については、「Ⅱ 普及啓発機能」参照。

V 管理機能

1. 施設運用のための必要機能の整備

1) 備品の整備

- ・保全実態調査票、保全台帳を厚生労働省へ提出した。(2018年7月)

2) 案内標示、工事等

- ・重監房パノラマ全景画像パネル保護用ガラスフィルムを施工した。(2018年4月24日)
- ・門衛跡門柱の移設工事を行った。(2018年5月28日～29日)
- ・植栽のメンテナンスを行った。(2018年8月28日～29日、31日)
- ・館内空調定期点検、ならびに館内環境測定を実施した。(2018年11月20日～21日)
- ・屋根防水補修工事を行った。(2018年11月21日～23日、12月2日)
- ・空調メンテナンス（オイル交換、冷却液漏れ等）を行った。(2019年3月29日)
- ・夏季における除草、植栽等環境整備を行った。
- ・冬季における除雪、防風雪対策、屋根上降雪前点検・簡易清掃を行った。

3) 緊急時対応

- ・消防訓練、消防用設備機器点検（2018年4月12日）、ならびに総合点検（2018年11月8日）を実施した。
- ・法定設備点検を実施した。(2018年11月8日)

4) 博物館施設、関係機関との連携活動

- ・群馬県博物館連絡協議会総会に参加した。(於：群馬県立歴史博物館、2018年5月11日)
- ・厚生労働省ハンセン病資料館等運営企画検討会に参加した。(2018年5月31日、12月19日)
- ・第66回全国博物館大会に参加した。(於：東京文化会館、2018年11月28日～29日)
- ・群馬県博物館連絡協議会総会に参加した。(於：群馬県立土屋文明文学館、2019年2月15日)
- ・インターネットミュージアムのメンテナンス、日本博物館協会関係各種事務手続き等を行った。

VI 2018年度利用状況

1) 開館日数

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）の開館日数は、307日であった。

2) 入館者数

2018年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数 (人)	開館日 (日)	1日平均 (人)※	備考
4月	457	26	17.58	フルオープン期間 (4/26～11/14)
5月	750	27	27.78	
6月	367	26	14.12	
7月	675	26	25.96	
8月	1,036	27	38.37	
9月	949	26	36.50	
10月	1,003	26	38.58	
11月	437	26	16.81	団体専用期間 (11/15～4/25)
12月	238	24	9.92	
1月	72	23	3.13	
2月	61	24	2.54	
3月	224	26	8.62	
合計	6,269	307	20.42	

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

【入館者数平均】20.42人/日

【団体利用状況】327団体3,746人（学校団体：44団体1,047人）

利用案内

国立ハンセン病資料館

【交通アクセス】

- ・西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅北口行きバスで約10分（「ハンセン病資料館」下車すぐ）
- ・西武新宿線久米川駅北口から、清瀬駅南口行きバスで約20分（「ハンセン病資料館」下車すぐ）
- ・JR武蔵野線新秋津駅から、久米川駅北口行きバスで約10分（「全生園前」下車、徒歩約10分）、または徒歩約20分
- ・西武池袋線秋津駅より徒歩約20分
- ・関越自動車道所沢インターチェンジから車で約30分

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

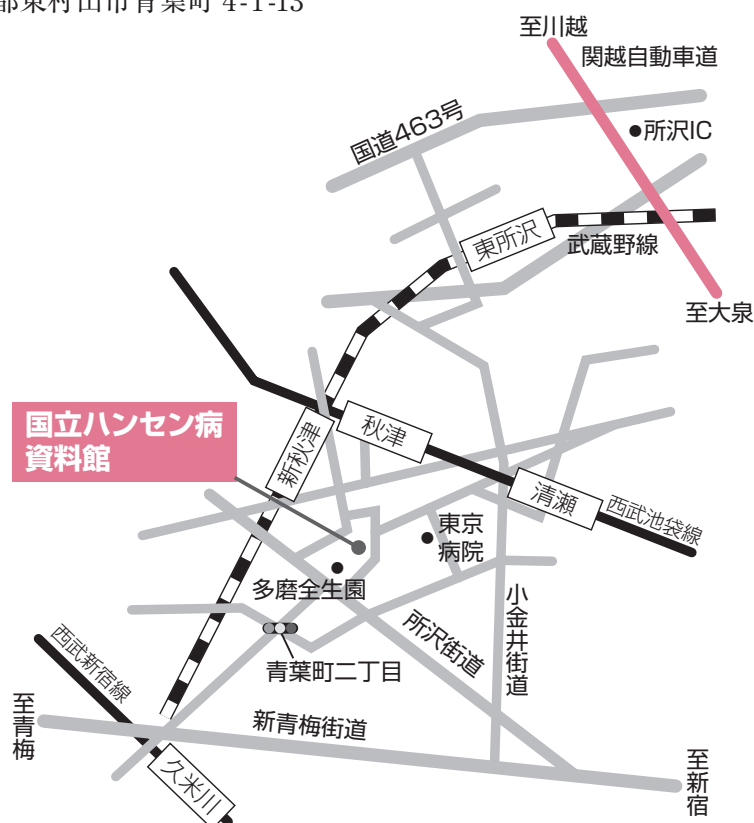
【休館日】

毎週月曜日（祝日の場合は開館）、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日

【入館料】

無料

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13



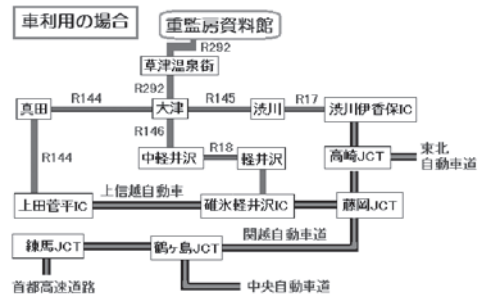
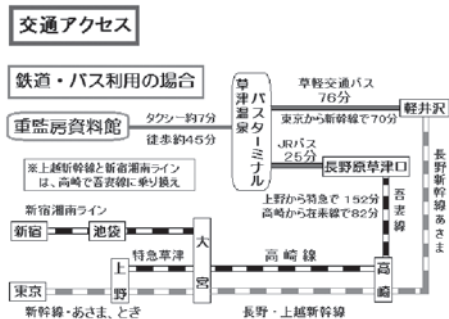
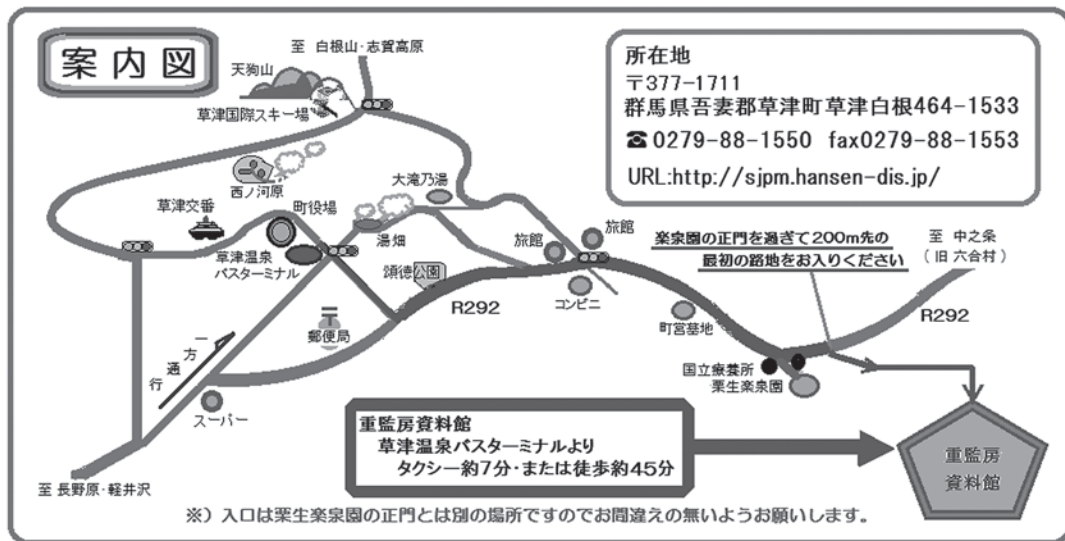
電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL : <http://www.hansen-dis.jp/>

重監房資料館

区分	フルオープン期間 (4/26～11/14)	団体専用期間 (11/15～4/25)
受付対象	個人及び団体・学校	団体・学校の予約のみ
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館3時00分)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日	

入館料：無料



〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533

電話 0279-88-1550 FAX 0279-88-1553

URL : <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2018年度 年報

2020年2月29日 発行

編集・発行 国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL : <http://www.hansen-dis.jp/>
